



【ウィンターコンサートは
大成功でした！】

山小屋便り 新春号

January 目次
2026

2026 年 1 月 9 日 発行

0 2	ウィンターコンサート、大成功 !! —— 理解しあう仲間と、ショーを作っていく ——	ゆうな
0 8	ウィンターコンサートを終えて	ここの
1 3	「K I N N H F」は幕を開けたばかり	ゆうは
2 1	よしえちゃんの門出	なお
2 3	ゲストをお迎えして、お餅つき大会 !!	のりこ
2 6	門松作りの 1 日	ここの
2 8	1 2 品目のおせち作り！ 白熱のきんとん練り	ほし
3 0	さあ、仲間と一緒に全力ステージ !! N H F 紅白歌合戦	かのん
3 7	新しい 1 年、今の幸せを胸に刻んで —— 2 0 2 6 年の元旦 ——	ゆうは
3 9	困ったコマ回し !? 跳ねて喜んだ羽根つき !!	うたな
4 2	獅子舞がやってきた！	よしみ
4 3	「今」に向き合って書く —— 書き初めの澄んだ時間 ——	そな
4 4	初雪・真剣 百人一首	ほのか
4 6	新春ライブ、特別な夜	みゆ
4 8	ちぎり絵で自画像を	つばめ
5 0	豆つかみ大会の開催・ ミニ山田君登場！ 福笑い笑点	りな
5 2	ミラクル・チャレンジ！ 新春セブンブリッジ大会	みつき

発行 なのはなファミリー
岡山県勝田郡勝央町石生 495
☎ 0868-38-3571
URL <https://nanohanafamily.jp>
編集者 かに

ウィンターコンサート、大成功!!

——理解しあう仲間と、ショーを作っていく——

ゆうな

本当に本当に、胸がいっぱいになる、三時間半でした。そして、心から、楽しかったです。

二〇二五年十二月二十一日。なのはファミリーウィンターコンサートを、勝央文化ホールで行な

いました。

今回、私は初めて役者という立場で、コンサートに出させてもらって、役者として舞台上に立ちま

した。人生で初めて、舞台上でセリフを言うということ。多くのお客様さんを前にして、自分を表現すること。舞台上でスポットライトを浴びて、思いつき、自分の口から自分の言葉を言う。その役になり切って、その役として、ステージに立つこと。すべてが私にとって初めてでした。

演劇なんてやったことがない。何もわからない。そこからスタートしました。正直、不安でいっぱいでした。自分が演劇をできる自信がありませんでした。舞台上立つこと、なのはなのコンサートで役者としてステージに立つ自信がありませんでした。でも、私は独りぼっちじゃありませんでした。一人でコンサートを作っていくんじゃない。みんなで作っていく。



何もわからない私に、お父さん、お母さん、なおちゃん、あゆちゃん。たくさんたくさん、教えてくださる人たちがいました。そして、なおちゃんをはじめとする、そなちゃん、あやちゃんと、毎日一緒に演劇練習を積み重ねました。

きつと一人ではこまで来ることは決してできなかったと思います。一緒に立ち向かってくれる仲間がいる。正しいほうへと導いてくださる人たちがいる。そして、大きな家族があつて、手を取り合つて、一体となる人たちがいるからこそ、私はその中で、お父さんお母さんが導いてくれる道へと、おびえず、くじけず、まっすぐに進んでいくことができた、と感じます。

本番は一瞬でした。本当に、数

分のように感じました。お父さんお母さんが、「本番は泣いても笑っても、本番。それは一瞬であつて、本番まで練習するその過程が大切なんだ。その過程の、残滓みたいなものが、今日なんだ」と、おっしゃっていました。その言葉にぐっと、胸を刺されるものがありました。

■「ゆめの」として

コンサート練習。毎日毎日、演劇練習を積み重ねました。お父さんや、なおちゃんが演劇練習を見てください、たくさん教えてくださいました。その中でものすごく学ぶものがありました。ただひ

(次ページへ続く)



勝央文化ホールにてウィンターコンサートを開催しました。愛情や幸せとは何か、私たちが生きていく意味、音楽劇を通して一人ひとりの胸に理解を深めながら、全力で表現したコンサート。たくさんのお客様から拍手を頂くことができました。



(前ページからの続き)



たさらに演技をしていても、お客さんには何も伝わらない。自分がどうしたいの？ お客さんに伝えたいの？ この脚本に感動してる？ 何をどこを、どう伝えたいのか。気持ちがないと何も伝わらないんだ。すべてのセリフに感情を持つ。そして、舞台の上で常に輝き続けること。どんな表情も見せる。そして輝く。お父さんと演劇練習をする中で、自分の演じる「ゆめの」が、どんな子なのか、どういう考えをもっているのか、はつきり見えてきました。「ゆめの」は引きこもりだけど、ちゃんと生きたい。この世の中を変えたい。自分の意思がはつきりある子なんだ、と。もちろんくじけそうにもなりました。でも、そ

んなときは、手を取ってくれる仲間がすぐそばにいました。あゆちゃん、

「ゆうなちゃんは、本当はまじめに生きたいんだよ。なのはなにいろみんなもそう。だから摂食障害になって、ここにいろんだ」

って私にくれた言葉。その時、

「私も、ゆめのと一緒になんだ。そしてなのはなにいろみんなも、ゆめと同じ。『ちゃんと生きられると思えない』というセリフから、この舞台を通して『これからはこちらと生きていくことにする』と言うまでになる、ゆめのの成長は、みんながなのはなで成長させてもらった過程と同じなんだ」

と、強く感じました。私はその言葉を、みんなの気持ちを代弁して言わせてもらっているんだ。ここでくじけるとか、あきらめるとか、絶対にしたくなくて、なのは

なに出会って、生きることができた、ここまで来ることができた、その過程を、舞台で表現するんだ。って。まっすぐに進んでいうって、強く思いました。

■演劇練習の日々

そして、私はなおちゃんと一緒に演劇練習ができて、本当に楽しかったです。たくさん優しい気持ちをもりました。なおちゃんは絶対に誰かを置いてきぼりにすることはありませんでした。誰かが、困っていたら、絶対に一緒になつて悩んでくれます。ここではどういう動きをしたらいいか？ どういう風にこのセリフを言ったらいいか？ なおちゃんが一緒になつて考えてくれて、一緒になつて演技してくれました。誰かを思って人のために演技をできる、



その、なおちゃんの姿が本当にかっこよくて、すごく、輝いていました。なおちゃんは演劇が大好きなんだ、と。そんななおちゃんと一緒にいろと、自分も、いつの間にか、ものすごく演劇が大好きになつていました。

なおちゃんの演技は、本当にすごいです。表情がころころ変わり、常にその人になり切っている。どんな時もお客さんに伝えることを忘れない。私と比べ物にならないくらい、舞台の上で輝いていました。手相見妖怪として。でも、そんななおちゃんと一緒に演劇をしていると、一緒に舞台上に立っていると、その姿から、沢山のことを教えてもらいました。そして、わたしもなおちゃんのように表現するんだ、という強い気持ちをもらいました。

なおちゃん演じる手相見妖怪からの目線のバトン。深い気持ちがある、ものすごく伝わってきました。自分の、

「これからはちゃんと生きていくことにする」

というセリフの前に、なおちゃんからの目線のバトンがありました。その時のなおちゃんの強い視線。ぐっと自分の胸にくるものがありました。なおちゃんの力強い演技。そして優しい演技。すべてが自分の心に響きました。なおちゃんが一緒に演技をしてくれたからこそ、今の自分がある。お父さん、お母さん、なおちゃん、あゆちゃん、演劇を見てくださって、たくさんのことを教えてくださって、そして、なのはなのみんなと一緒にコンサートに向かって、進

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

んでいく、そんな家族に囲まれていたからこそ、私はここまで来ることができました。私はコンサートを通して、改めて、なのはなにきて、なのはなのお父さんお母さん、そして大切な家族に出会えたことが、どれほど幸せなことか、心から実感しました。

実際に舞台に立つて、客席にいるお客さんに表現することは、本当に楽しかったです。もちろん緊張もしましたが、それ以上に、みんなをたくさん感じられて、胸がいっぱいになりました。

■伝えるために

初めの曲、『ボヘミアン・ラプ



ソディー』。

お客さんに、

「これから、なのはなのコンサートが始まりますよ。最後まで楽しんでいってくださいね」

という気持ちを表現すること。誰一人として欠けてはいけない。大きな円を作るのも、隊列移動をするのも、誰一人、欠けてはいけないし、違う位置に一人でも立ってしまったり、違ったものになってしまう。一人ひとりの存在がものすごく大きい。

コンサート直前まで場ミリを確認しました。本番、一人ひとりがそのことを意識している、そして一体になろうとしている。それをものすごく感じました。

そして、ももかちゃんがリフトで上がった時、大きな歓声と拍手がありました。その空気だけで本当に涙があふれそうになりました



た。自分たちの伝えるものがお客さんに届く、それがどれほど、うれしいものかが、ものすごくよくわかりました。

お客さんの拍手は、沢山ありました。ゆめの、じゅり、ちの三人で妖怪たちをやつつけに行く。いい結果が出なくてもいいから、この世の中を少しでも変えたいんだ。そのことをお客さんに伝えた後で、「ねこ、やめないよ」で決



めポーズをした時、拍手がありました。ねこが帰ってきた時の反応も、ゆめのの強いセリフも、店員に見つかった時の動きも、たくさん練習してきたシーン。私ひとりじゃない。一緒に来てくれる仲間がいる。三人がやっと一体になるシーンでお客さんから拍手をいただけて、すごくうれしかったです。そして何より、リトル・トリリーのシーンで拍手をたくさんもらえたことが、本当にうれしかったです。ゆめのが、

「どうして豊かな暮らしができるのか」

そう聞いたときにリトル・トリリーは、

「おじいちゃんが、山の木のことを、全部、知ってるからだよ」

と伝える。リトル・トリリーが大好きで、ずっとあこがれていた



た、そのリトル・トリリーの口から教えてもらうその瞬間。お客さんから大きな拍手がありました。コンサート直前に少し動きを変えたシーンで、リトル・トリリーを演じる、まりかちゃんもきつと不安もあったと思います。でも、リトル・トリリーとして、大きな声で、間をおいてお客さんにしっかりと伝えたい、あの瞬間。本当に自分の胸に響きました。リトル・トリリーに会うことができた、その喜びが本当にあふれてきて、胸がいっぱいになりました。

そして、「I KIN YE」のシーン。

幸せは過去に向かってしか使わない言葉。そして、理解し合うことが愛情なんだ。理解し合う日々

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

を一日一日積み重ねることが、幸せになることだ。

そのシーンは私も、本当に大好きなシーンでした。なのはなにに来て教えてもらったこと。それがいっぱい詰まっているシーンでした。お客さんから大きな拍手があつて、お客さんにちゃんと伝わったんだって、心から感じました。理解し合うことがどれほど大切なことか。今は人と人が向き合えていない、共感できていない、分かり合えていないということばかり。誰もが理解し合う、共感しあう、それが本当の愛情なんだ。本当の幸せなんだって、お客さんに強く伝えることができて、私たちの役割が果たされたような



喜びがありました。



■みんなで繋いだ

当日の午前中まで、出はけの練習をしました。

今、どのようなシーンをやっているのか。そのシーンを思っ、移り変わる次のシーンはどんな色か。一人ひとりの気持ちがないと、お客さんには伝わらない。

自分が、「ちゃんと生きられると思えない」そう言った時に、ザッとみんなが『ドント・トライ・ソー・ハード』で出てきてくれる時、いつも以上に、「大丈夫だよ」「そんなに頑張らなくていいんだよ」という気持ちが伝わってくる感覚があつて、ゆめのの傷や、辛さを癒してくれるように感じました。そ

の時、なのはなにきて、お父さんお母さんに、自分が何もできてなくてもいい。大丈夫。いてくれるだけでうれしい。と自分の存在を認めてもらったときの、癒しがよみがえってきて、そのことが本当にありがたくて、幸せなことだとして強く実感しました。

猫ファミリーのシーンの後の『クール・キャット』。天国の後の『ザ・ミラクル』。リトル・トリリーの「おいじちゃん全部知っているんだ」と言った後の『オ・ヴァイ』。未来世界の前の『バッド・ハビッツ』。

劇と劇をつないでくれるダンサーのみんなが、そしてアンサンブルのみんなが、そのシーンの人になり切ったり、そのシーンの最後の言葉を大切にして、その言葉を思っ出てきてくれて、それがものすごく舞台袖から見ていると伝わってきて。そんなダンスと、劇が、重なって、よりお客さんに伝わるものがあるんだ、と実感しました。

お父さんから、ダンスでもコーラスでも演劇でも、楽器演奏でも、教えてもらうことがあります。それは、何よりも気持ちが一番大切だ、ということ。どんなにうまくても気持ちがなかったら何も伝わ

らない。何が言いたいのかわからない。へたくそでも、できなくても、お客さんにこれを伝えたい、ここを強く言いたい、そういう強い気持ちがあつたら、お客さんに深く届くんだ、と。

なのはなの舞台に立つみんなは、同じことを思っ、強くそういう意思をもっ立っています。だからこそ、深く届くものが、やっている私たちにも、見ているお客さんにもあるんだって感じます。

舞台はみんなでつくるもの。コンサートの前日に、お父さんお母さんがそう言っていました。

ここまで来たのも、自分一人じゃない。コンサート当日も、そのステージを作るのは私ひとりじゃない。みんなの力があつて、このコンサートがあるんだ、と。



「誰かの小さなスーパーマンになる」という目標の週がありました。本当に全員が、全員のスーパーマンであつたと感じます。劇をつないでくれるダンスがあるから、演劇が成り立つ。ダンスをつなぐ劇があるからダンスができる。曲を演奏するバンド。コーラス。照明、ピンスポットの切り替えを常にしていてくれる方。写真や映像を撮って、DVDを作つてくださる方たちがいる。常に音響を調整してくださっている。

そして、舞台袖では必ず誰かが早着替えをしている。早着替えをして次のステージに向かっていく。それを支える人がいる。私は主要役者でほとんど着替えはないのですが、一度だけ、早着替えがあります。それは『アウェイク』

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

の最中に、白のデコチューに着替える早着替え。かなりの戦いです。一つ間違えたり、失敗があると絶対に間に合わない。でも、それを支えてくれる仲間がいました。

主要役者のメンバー以外は『ボーン・フォー・デイス』への着替えがある。けど、私たちの早着替えを助けてくれました。私のヘルプに入ってくれるのはみつきちゃんだったのですが、黄色い鬼の恰好（着替え途中）で、服の着替え、マイクのセット、身なりのチェックまで、一緒にやってくれて、私は次の舞台に立つことができました。

きつと自分一人では間に合わない。でも、手伝ってくれる、繋いでくれる仲間がいるから、できる

んだ。本番でも、通し練習でも、困っている人がいたら絶対に助けしてくれる仲間がいます。突然のハプニングが起きたとしても、絶対に乗り越えられる。みんながいるから大丈夫だって、強く感じます。そういう風に感じられるのは、本当に舞台上立つみんなが一体となって、一つとなって、お客さんに伝えたいことを伝えていいるからだと思います。

■磨っていくことの楽しさ

今回、主要役者として舞台上立たせてもらって、お客さんに表現する、そのことが本当に気持ち良くて楽しいことなんだ、と強く感じました。自分の言葉が、客席の奥まで響き渡る瞬間。スポットライトの中で思い切り、ゆめのと



して演じる瞬間。お客さんからの笑い声、歓声、拍手があつて、伝えるものが次々に伝わっていく、瞬間。すべてが私にとって宝物で特別なものでした。

自分を表現することが怖かった。多くの人の前に立つことさえできなかった。セリフを言う？大きな声を出す？表情をお客さんに見せる？私にはできない。「ちゃんと生きていきたい」けど、できない私が、嫌だった。憎らしかった。だけど、私はなのはなにきて、百八十度変わりました。何も怖くない。恥ずかしくない。表現するのも、ステージに立つのも、何も怖くない。そして、「自分はちゃんと生きていっていいんだ」と思うことができた。なのはなにきて、正しい道を教えてもらって、何のために生きているのか、ちゃん

んと生きるということがどういうことなのか。その道に自分が進んでいいんだって、強く感じることでできました。そして、この舞台でそのことを、表現できたことが、本当に本当に、うれしかったです。なのはなになることができた、そしてお父さんお母さん、仲間に出会って今ここにいられることが、今の自分を思いっきり、舞台の上で表現できたことが、幸せでした。理解し合う仲間に出会ったからこそ、今の自分があるって感じます。私は、こんなにも、自分を表現することが楽しいことだったんだ、と初めて気が付きました。自分は、今まで、軽い人生を送ってきました。軽くて浅いコミュニケーションばかりを取ってきて、点と点の会話しかできなくて。そんな自分が嫌でした。ものすごく

変えたかったです。でも演劇をする中で、初めて深い感情を知りました。浅い感情のまま演技しても、浅い気持ちしかお客さんには伝わらない。深いところでお客さんに届けるためには、自分が深く、強い、役の感情を知らなければいけませんでした。

演劇をする中で、自分を捨てて演技することがいつの間にかものすごく楽しいものへと変わっていました。何かの役になり切ることで、深いところで解釈をして、深演じ、劇の中で、妖怪や閻魔大王、未来の人、リトル・トリーなどたくさんの人たちに出会って。その

(次ページへ続く)

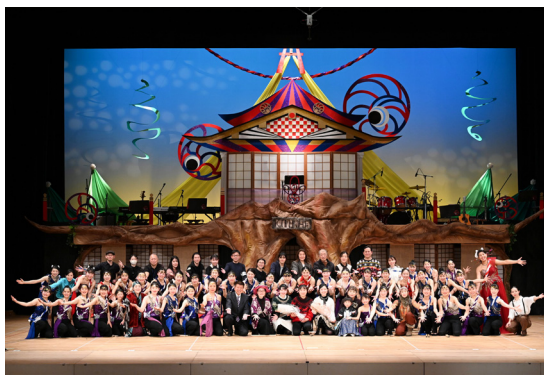


(前ページからの続き)

瞬間が本当に楽しくて、幸せの時間でした。毎日の演劇練習が楽しくてたまらないものになっていました。本当に、今までの自分とは、まるで違って、初めての感情でした。練習すればするだけ、徐々に慣れてきて、そのシーンが良いものへと変わっていく、本当にうれしかったです。努力することが、自分を磨いていくことが本当に楽しかったです。

■たくさんの方々の力で

コンサートを迎えるうえで、多くの家族に囲まれました。なのはこの卒業生が次々と帰ってきてくれました。



竹内さんや、中嶋さん、相川さん、正田さん、大竹さん、など、コンサートをやる上でたくさんの方々が協力してくださいました。そして、照明、カメラ、台所など、沢山手伝ってください。本当に、自分一人ではできないコンサート。多くの方の支えがあって、できる。一人ひとりの存在が大きくて大切で。多くの方が集まって、ホールは暖かい空気で包まれました。その空気の中にいられたことが、本当に幸せでした。

大切な家族と日々の練習を積み重ねる日々。そして本番、幕が開く前の緊張感。みんな「エイエイオー!」と、言った瞬間。主要役者の四人で肩を組んで「頑張るぞ!!」と言った瞬間。お客さんからの温かい拍手があつて、その瞬間、あたたかい空気で舞台が包まれて。終わった後、みんなが抱き合つて喜び合つて。お父さんお母さん、そして見てくれていた卒業生や、地域の方々から「すごくよかった」と言ってもらえたこと。すべてが私にとって特別な、そして大切に宝物のような瞬間だと思っています。きつと、私の一生に残る、大切な経験です。



コンサートは終わってしまったけど、私たちは決して終わらないです。私たちにお父さんお母さんが伝えてくれたものがあります。人は何のために生きているか。理解し合う日々を積み重ねること。そして、今回の脚本で初めて、自分の人生は自分で選んだものだということを知りました。摂食障害になることを、なののはなに来ること、選んだのはすべて自分なんだ。摂食障害は、ずっと走り続けなければいけない病気。治り続けなければいけない病気。成長し続けなければいけない。その人生を私は選んだ。なののはなに来て、利他心を持つことを、まだ見ぬ誰かのために治ることを、選んだ。



す。なののはなの一として、摂食障害になった一人として、生きていきたいと心から感じます。なののはなに来る前の自分、軽くて浅くて、チャラチャラして、周りの人たちに流されて、何も考えず生きる。そんな自分をなののはなで変えて、お父さんお母さんのように利他的に、理解し合うことを広めていく、その一人になりたい。自分が生きる意味がここにあると思います。魂磨きを続けていくこと。魂磨きのために生まれてきたこと。お父さんお母さんからのメッセージを自分のものにして、これから進んでいきたいです。

■ショーは続く

お父さんお母さんが自分を「ゆ
(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

めの」として、この脚本での役割をくれました。そのこともお父さんお母さんからのメッセージだと思っています。ゆうなは、ゆめの役を通して成長してほしい。お母さんから、その言葉を聞いたとき、私は、ものすごくうれしかったです。自分の成長を願って、この役を与えてくださった。そのことがどれほどありがたいことか。私はその言葉を聞いて、お父さんお母さんが望む、その道へ、突き進んでいきたいと心から感じました。

ゆめのは、ちゃんと生きたい、この世の中をもっと優しい世の中に変えたい気持ちを強く持っています。私よりもはるかに。でも、私はこの役を通して、ゆめの達と同じくらい、もっともつと強い気持ちを持ちたい。



ゆめのとて、旅する中で、

「魂磨きをすることが尊いこと」

「理解し合うことが愛情だということ」

「幸せは過去に向かって使う言葉だ、ということ」

「自分の人生は自分で選んで生まれてきたということ」

「私たちが求める未来はエネルギー問題も、貧しい国も、地球温暖化もすべて解決され、平和に穏やかに暮らしていること」

を知りました。時空を超えて、世界を超えて旅する中でたくさんの人に出会い、沢山の発見がありました。その新事実を、知った一人として、その事実を本当に実現していく一人になりたい。お客さんに伝え、世界に広める一人でありたい。コンサートが終わっても、

ゆめのを演じることはやめない。ゆめのや、じゅり、手相見さんやちのたちと旅した、あの一瞬を、自分のものにして、世の中を変えていきたい。KinNHFを作っていく一人でありたい。そう強く思います。

本当になのはなファミリウインターコンサートが、とても楽しい、そして私の一生に残るような、宝物のような時間でした。なのは

なに来て本当に良かった。お父さんお母さん、そして大切な家族に出会えて本当に良かった。私はこの喜びを、まだ見ぬ誰かにつけていきます。これでおしまいじゃなくて、ここが始まりで、これから、私はコンサートで学んだことを、つなげていきます。なのはなの一として。明日も頑張ろう!!!

ウインターコンサートを終えて

ここの

コンサート翌日。その日から練習がないということが信じられなくて、朝起きた時に、本当に終わってしまったんだなと思いました。数か月前の私はまさかステージに立っているなんて想像もしていませんでした。なのはなに来た時にはすでに練習が始まっていた、遅れてキャッチアップしてもらったこともあれば、みんなと一

緒に練習し始めたこともたくさんありました。初めてコーラスをあのちゃんに指導してもらった時のことをとてもよく覚えています。その曲は『ボヘミアン・ラプソディ』でした。音楽室にみんなが集まって、何時間もずっと立ちっぱなしでした。私は次第に足の感覚がなくなっていくのを感じて、平気な振りをしながら心では「早



く終わらないかな」と思っていました。それでもみんなが真剣にアドバイスを聞いて、どんどんよくなっていくことが音楽のことを何も知らない私でもよく分かりました。そもそも洋楽なんて全く興味がなかった私がいつの日かQueenの曲を歌う日が来るなんて思ってもみませんでした(笑)。

それからも日中は、畑と練習で忙しい中、ついに脚本が完成したというお知らせがありました。一週間くらいだったと思います。ずっと楽しみにしていた脚本がついに。早速みんなで読み合わせがありました。読み終わった後の感想は、「思ったより長いな」とか「こういう感じなのか」という

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

感じで、正直あまりシーンが想像できていなかったのでもよく分かっていませんでした。でも一からストーリーを作り上げるこのすごさはとても感じました。それからどんな配役も決まっていって、私は初めてだし、役は当然ないものだと思っていました。ある日、黒板に貼ってあった配役を見てみると「飴妖怪 このの」の文字が。「私!!」とびっくりしました。すぐに台本をみてセリフを確認して緊張しながら言ったことを覚えていきます。候補にはもう一人、ゆうはちゃんもいて、二人が言い終わった後お母さんが、ゆうはちゃんはずでに学生の役が決まっていたのもあって、「ここのがいいんじゃないか」と言ってくださいま



した。どんな役でももらえたことが本当にうれしかったです。これらの練習がどんなに大変なものになるか知ることなく……。セリフは少なかったのだけれくらいならいけると思っていたものの、よく見てみると、登場するシーンはたくさんありました。そもそも飴妖怪を初めて聞いて、鳥取出身なこともあって妖怪とは少し近しいものを感じていながらも、どんな妖怪なのか知ることからスタートしました。調べてみるとすごくひよろひよろで、よくみる白い浴衣に三角の布巾を頭にかぶっている幽霊みたいな妖怪で、お腹に赤ちゃんを授かったまま死んでしまい、水あめを買って赤ちゃんにあげていたそうです。知れたことはよかったものの、これからど



んな役作りをしたらいいのかは良くわかりませんでした。そんな中、他の妖怪の宴会シーンの練習も始まって、そこにはとても心強い先輩がたくさんいました。まだみんな役作りができていない中、練習の中でそれぞれの妖怪についてみんなで見聞を共有して、私は意見をなかなか言えなくて申し訳なかったけれど、私の飴妖怪についてもたくさん意見を言ってもらえて、自分では考えていなかったこともたくさんあって、勉強になることばかりでうれしかったです。それからというものの、夜も毎日のように集まって、日中いなかったひろちゃんと共有したり、みんなとそろえて練習する時間がとても楽しくて、妖怪メンバーはとも個性豊かで、たくさん意見



が飛び交うなたくさん笑い合っていて、気が付けばどんどん役になりきっていました。

■もっと表情を出して

ダンスも初めは、見ていただけだった『ボヘミアン・ラプソディ』や『ザ・ショウ・マスト・ゴー・オン』もフォーメーションに入ってもらえて、『ザ・ショウ・マスト・ゴー・オン』のサビはみんなと一緒に振り入れをしました。初めてさやねちゃんが前で踊ってくれたのを見た時、とてもかっこよくて、自分は踊れる自信がなかったけれど、やりたい! と思いました。私はダンスは全く経験がなくて、見ることは好きだったけれど

やるのは逆に苦手意識をもっていました。それでも教えてくれるさやねちゃんやあけみちゃんはポーズを一つひとつ丁寧に教えてくれて、振りもだけどんなイメージをもったらいというとも言ってくれる表現力の豊かさに驚きつつも、すごく分かりやすく楽しくかったです。初めは激しい振りやきつい体勢に、最近全く運動していなかったこともあって激しい筋肉痛に襲われましたが、徐々に筋肉痛になることもなくなっていく、身体も筋力がついていることを感じてうれしかったです。

コーラスもまた大変でした。次から次へと新しい曲の音入れがあつて、まだあやふやなまま、前のコンサートで歌って今年も歌う曲を復習しようとなった時、一気に四、五曲くらい楽譜を渡されて、思わず戸惑ってしまいました。それでもみんなが「一緒に頑張ろう」と声をかけてくれたり、まなかちゃんが夕食後に一曲ずつキヤッチアップもしてくれたのがうれしかったです。歌うこと自体はもともと好きなほうではあったものの、ここまで真剣に練習したことはなかったです。あゆちゃん

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

曲ができたストーリーやどんな意味が込められているのか練習のたびに教えてくれることが、歌うにあたってすごくモチベーションになって、それを聞いてからでは気持ちの入れようが全くちがうことをいつも実感していました。特にQueenの曲は、本気で音楽を愛していて、一人でも多くの人が自分たちの曲を届けたいという思いがどの曲にも込められていて、とても素敵な曲ばかりで、全世界に今もなお愛されている理由がよく分かりました。

歌えるようになってくると、今度は表情をつけるということが課題になりました。摂食障害になつてから、気が付けば感情も出さなくなっていました。たまに面白い

ことがあつて笑うと、同級生から

「このちゃんがそんなに笑っているところを初めて見た」

と言われて、自分では今まで気にしていなかったのに、そんな風に周りからは見えていたことを知って、とても驚いて傷ついたことがありました。そのあとも何度か同じようなことを言われたことがあります。いつしかどうでもよくなっていました。練習している中で表情が薄いと言われて、鏡であとから見てみると確かに思っていたより笑えていなかったし、いかにも作り笑顔という感じで怖い表情になつているように思いました。ある日に夕食後のバディー練習でまなかちゃんが見てくれて、表情レッスンをした時がありまし



た。曲ごとに表情をみんなで見合いました。自分も見てもらって、「もつともつと表情を出して」とか「目に光を入れる」ということを言ってもらえてイメージが付きやすくなりました。最後にみんなで、何の曲でしようクイズを出しました。笑顔の表情だけでも違いがでて、「これかな」と分かるのが面白かったです。

■サククスに向かいながら

練習が進む中で、もらえる時間が少なかったのが楽器練習でした。私が来た時には、すでにみんなは自分の楽器で『オペラ座の怪人』の練習が始まつていて、私は楽器を決めることからスタートしました。最初にみんなの練習時間にお邪魔させてもらい、実際に

持つて吹かせてもらいました。私は楽器も初心者で楽譜も読めないもので、不安でいっぱいでした。

その中で自分の好きなアーティストさんがサククスを吹けて、かついいなと思っていたこともあり少しサククスに興味があつて、吹いてみると、音も何とか出すことができたので、希望としてサククスをやってみたいと伝えました。数日たつてテナーサククスをやることが決まつて、とてもうれしかったです。テナーサククスには、あけみちゃんやなるちゃんもいてくれて、とても心強いなと思いました。それでも練習は自分にとつてはなかなかハードで、音階はリコーダーのように指で押さえれば変わっていくのでわかりや



すかったものの、タンギングという言葉を初めて聞いて、なかなか初めはうまくできませんでした。あと息が全然もたなかったり、タイミングがよく分からなくて全く続けて吹けませんでした。ロングトーンをするのは今でもギリギリです(笑)。

それからあゆちゃんに見てもらって音楽室でみんな練習したとき、あゆちゃんが『オペラ座の怪人』の物語を教えてください、私は初めて知って、すごく衝撃でした。純粹に愛する気持ちの中に行き過ぎてしまった欲が切なくて、行き過ぎてしまった感情に少し怖さを感じました。その話を聞いて、より曲のイメージがつかまりました。あと、ありがたいことに日

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

中の昼食前一時間、さとみちゃんとキッツアップの時間をもらえらることになりました。さとみちゃんは本当に上手で、けれど吹奏楽部も一年しかやっていなかったと聞いて本当に才能だなと思いました。詳しくタンギングを教えてもらったり、苦手な音も分かってきたり、たった一時間だったのに次に吹いた時の吹きやすさの違いにとっても驚きました。その週は毎日の一時間、個人でたくさん練習出来て、日に日に吹けるようになっていく感覚がとてもうれしかったです。またサクスクリニックにも行かせてもらいました。初心者の方が行くことが申し訳なかったけれど、プロの奏者の方に直



接教えてもらえて、一番の発見は、上の歯がすっかりマウスピースにあたっていないということでした。啞え方からできていなかったことにとても驚きました。あと教えてもらった先生があけみちゃんのサククスを見て、とても興奮していたことに、それほど貴重な楽器が揃っていて、使わせてもらえることがすごいことなんだなと実感しました。すごく貴重な時間を過ごせてありがたかったです。パート練習では自分たちの主旋律を、トロンボーンや大正琴の人と一緒に、主にえつこちゃんが指揮

を執ってくれて、どんなイメージで吹こうということを言ってくれながら練習したり、隣ではあけみちゃんがいいつもアドバイスをくれて上達することができたと思います。

■舞台設置！

通しが始まってからはさらに忙しくなつて、練習したいことがたくさんあるのにどんどん時間が過ぎていくのが早く感じました。脚本も新しくなったり、みんなの完成度も上がつて、自分も気が引き締まってきました。特に劇は、脚本が新しくなるたびに分かりやすさや、好きなシーンがどんどん増えていったし、みんなすごいけれどやっぱり主要役者の三人



が毎日練習を重ねていく中で気持ち伝わる表現になっているというところが一番すごいことだと思つたし、そこにいつでも安定しているなおちゃんがいることでより面白さが増すんだろうなと思いました。

本番が近づくにつれて、今度は



舞台背景の制作が始まりました。お母さんが考えてくださった考案は想像よりはるかにすごくて、どうやって作るのか不思議でしかありませんでした。そんななか私は、舞台背景係につかせてもらって一緒に作業できたのがとてもうれしかったです。さくらちゃんやまえちゃんが須原さんと考えて作っていくお手伝いは、初めてすること、知ることがたくさんあって毎日が冒険でした。

ついにホール入りして一日目。実際にホールで組み立てると、体育館で見ていたよりも何倍も大きく見えて迫力が増すのを実感しました。それから照明もついたり、バンドも音を出してやってみ

(次ページへ続く)

■自分自身の物語

本番は、緞帳が上がった瞬間に

(前ページからの続き)
ると、これが本当のステージなんだなと思つて、初めての経験に胸がいっぱいになりました。それと同時に改めて照明や、音響すべてを自分たちの手や手伝つてくれる関係者の方だけで完成させていることがすごいことだなと思ひました。それでも始めたばかりの時は、舞台背景もベニヤ板にイラストを描いただけのものだつたと聞いて、今までの卒業生の先輩方がお父さん、お母さんと一緒に作り上げてきたからこそ今があることに感謝したいです。



たくさんのお客さんが見えて胸がいっぱいになりました。『ボヘミアン・ラプソディ』の演技中、涙を必死にこらえながら、こみ上げてくる感情を抑えていました。大きな拍手や歓声、笑い声をもらえることがとてもうれしくて、しっかりと伝わっているを感じました。私は自分のセリフが一番ドキドキしていて、近づくとつれて気が動転してしまいそうでした。ライトが自分だけに当たつてお客さんの視線が集まった瞬間、転ばずに前に出れて、声もしつかり出て、セリフを言い終われて、とにかく安心してました。自分の役割を果たしてもう終わったくらいに気分になりました。本番前に妖怪のみんなを確認した変更点もみんな揃った感覚を感じて、本当に楽しかったです。最後『ザ・ショー・



ラスト・ゴー・オン』が終わった瞬間、ほんとに生きていてよかったなと思ひました。最後、舞台挨拶でのお母さんのコメントで、こらえていたものがすべてあふれ出してしまいました。
お父さんが、
「脚本は自分が書いたのではなくて、神様が書かせているだけなんだ」
と教えてくれた時、お父さんがみんなと同じ立場になつて、メッセージと一緒にたくさんの人に伝えようとしてくれていることを改めて実感しました。数か月前まで、真つ暗で先が見えない人生を歩んでいて、ステージに立つなんて全く想像もしていなかったのに、なのはなに来て一日で光が差ししてきました。みんなの温かさに触れて、同じ悩みを抱えてきたみんな



だからこそ分かり合える気持ち。理解し理解される関係がすでに成り立っているからこそ自分もすぐになじむことができました。伝えてもらおう側から伝える側になれた喜び。正直まだ自信をもつて伝えるには、自分は早いようにも思ひます。でもこの脚本を通して、今の人生を選んだのは自分自身で、摂食障害になることもなのはなに来てステージに立つことも決まっていたことを知りました。悩んでいた時間は魂磨きの一部だったこと。誰かの役に立たなくてとは思っていたけれど、ただ見ているだけでも十分だったこと。幸せをずっと追い求めて、今が台無しに



なっていたこと。まさにこの脚本は自分自身の物語そのもので、イモムシで引きこもりだった自分はみんなと練習した日々や、脚本を通してコンサートを終えた今さなごに成長できたと思ひます。まだ蝶になって飛び立つまでには時間がかかると思ひますが、今ならみんなと一緒に絶対飛び立つことができるという自信があります。華をもつてみんなの一部としてステージに立てたことが本当に楽しかったし、初めてこんなにも光を浴びて輝くことができました。今年のコンサートは終わつてしまつたけれど、この先一生心には残り続けるし、K I N N H F の未来作りもまだずっと続くので、わたしもみんなと一緒に成長し続けたいです。

「KINNHF」は

幕を開けたばかり

ゆうは

「KINNHF」の始まりの日。

これは現実？ それとも幻想？
非日常的で一瞬だったけれど永遠に残る幻のような最高の時間でした。

初めて参加させていただくコンサート。素人にはできない、プロにもできない。なのはなだからこそできるコンサート。



「上手なステージなんて求めていない。所詮は素人。プロには及ばない。けれどプロより感動するステージを私たちなら作ることができる」

そう話してくださったお父さんの言葉に、とても勇気をもらいました。

そんなコンサートを作る一員になることができて、すごく嬉しかったです。他では決して得ることのできない、これからの人生観が大きく変わる貴重な体験となりました。

八月の終わりから楽器練習が始まり、九月六日に音楽台宿第一弾、そして計十五回の合宿（集中練習日）、一週間のホール入り期間を経て迎えた当日。

約三か月、コンサートという大きな目標に向かってみんなで全力で走り抜けてきました。



何かにこんなに本気で取り組んだのは、今までの人生で初めての経験だったのではないかと思います。「本気を出すのは格好悪い」そんな現代の風潮に流され、なんとなく生きてきた。心の底では本気でやりたいと叫びつつも、それができずにいつしか本気を見失っていた私に、なのはなのお父さんお母さん、みんなが言葉と姿で本気でやる意味、楽しさを伝えてくれました。

どこまでも緻密に正解を求めて本気で生きる人生。それを知れたおかげで、これまでとは比べ物にならないほど良い人生に変えていけると思いました。

その過程でもちろん苦しいこともたくさんありました。自分では気が付かなかった、見て見ぬふり



をして逃げてきた自分の弱さに直面することが何度もありました。でもそれは、自分がこれまで生きてきた中での甘えからくるもの。コンサートを通じて、自分の甘えを自覚し、あたたかい家族と手を取り合いながら頑張れた時間が宝物となりました。

■ボヘミアン・ラプソディ

幕が開け、一曲目。

緞帳が上がっていく瞬間の緊張感、目の前の視界が開けていく感覚、今も鮮明に思い浮かべることが出来ます。たくさんの想いが詰まっている曲で、一曲目から涙が出そうでした。

幕開けの曲なので、「ウィンターコンサート、楽しんでください！」とお客さんに伝えるんだ、とお父さんから教えていただきました。

その思いに加え、あゆちゃんが教えてくださった和訳を読んで感じた想いもこみ上げてきました。「ママ、僕はたった今 人を殺してきてしまった」

この歌詞からあゆちゃんの歌が始まるこの曲。

こんなはずではなかった。誰かを悲しませるような、苦しませるようなことをするはずではなかった。ただ、ただ良く生きたかっただけなのだ。そんな純粋な良く生きたかったという気持ち、表情を作ると教えていただいて、これまでも良く生きたかったけれどそれができずもがいていた自分の物語と重なりました。

（次ページへ続く）



(前ページからの続き)

また、この曲は幕開け、しかもコーラスからスタートの曲。お客さんの気持ちをつかむ重要なコーラスとなるので、コーラスをする曲の中でも特に力を入れて練習した曲でした。音を取ることにすぐく苦手意識のある私は、今自分が



出している音が違っていることすらわからない状態でした。あまりの不出来さに、できない自分がみんなの中にまじっているということを苦痛に感じ、泣いて逃げ出してしまったこともあります。でもそんな時、みんなが、「一緒に居てくれるだけでも嬉しいよ。音はそのうち分かるようになるから」とやさしく声をかけてくれました。そして、たくさん、個人練習に付き合ってくれました。できない焦り、そしてそんな自分がどうみられるか。自分にこもって恐怖を抱いてしまっていたけれど、自分から離れてみれば、そこはみんなのあなたがさにあふれていました。できないからみんなと一緒にいたくなくないと思ってしまった気持ちですが、できるようになるためにみんなと一緒にいたいと思うよう

になりました。そうして練習を重ね、食事前のコーラスも始まり、何度も何度も歌い、しっかりと前向きに声を出せるようになりました。みんなと声をそろえられる喜びを知ることができました。

この曲は、ももかちゃんのリフトがあるのですが、その時にあがったお客さんからの歓声を聞いた瞬間、心の底から嬉しかったです。私は踊っていて姿を見ることができなかつたけれど、宙を舞うももかちゃんを思い浮かべるとパワーをもらうことができました。

「just get out」の場面では始まりの、「良く生きたかったけれど、もう駄目なんだ」という、切ない気持ちから、「そんな弱気の自分を捨て、良く生きてやるんだ!」



と志を持った歌詞と気持ちに切り替わり、力いっぱい踊ることができてポーズが決まった瞬間すごく気持ちよかったです。

みんなと何度も緻密に動きをそろえ、気持ちをそろえ、たくさん練習してきたこの曲でコンサートにスタートさせられて嬉しかったです。

■劇の始まり

『ボヘミアン・ラプソディ』が終盤に差し掛かると、私は途中で抜け、ダッシュで上手から下手に回り、劇に出る準備に入りました。私は物語の最初、第一声となるセリフを言う役をいただきました。

人は何のために生きるのか。本当の幸せとは何か。その答えを求める旅の始まり。その旅の始まりが私に務まるのか、と不安に思う気持ちもありました。

けれど、ここから始まるのだとわくわくした気持ちもあり、この役ができることが嬉しかったです。

学生二という名前もない、お客さんの印象にも残らないだろうなという役。それでも私にとっては、かけがえのない役でした。同じ学生役のほのかちゃんと、この子はどんな子なのだろうか、どんな気持ちなのだろうか、脚本にはない、その子の人生を作っていくことができ、とても楽しかったです。

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

ステージに足を踏み出す瞬間は、緊張もしたけれど、後にはほのかちゃん、あやちゃん、そなちゃんが続いてくれていることがとても心強かったです。

そして、この後の三時間、どうか主人公たちが素敵な時間をお客さんと共有できますように。そんな祈るような気持ちを込めて、バトンをつないではけていきました。

■主人公の女の子たちと

手相見妖怪の出会い

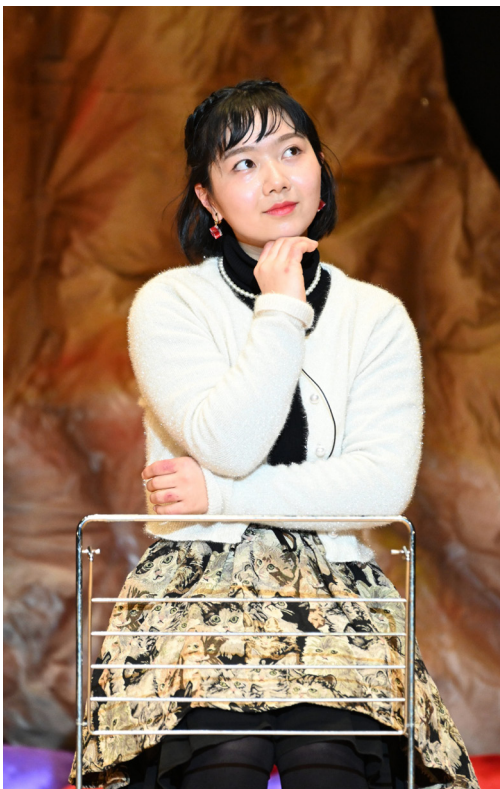
手相見妖怪の、ゆめのとちの手相をMOFで見た後に、「何か希望はありますか？」と聞けりフ。

私は最初、じゅりちゃんを猫にするように、手相見妖怪に何かしてもらいたいことはあるか、要求はあるかという質問かと思っていました。けれど、途中から、「何か生きていくための希望はありますか」という質問だったのでないかと思うようになりました。

そしてこの後の物語を通して、その希望をかなえられるように、心の中を隙間風が吹き抜けている三人が希望をもつて生きていくことができるようにするために、この手相見妖怪が現れたと思うと、改めて手相見妖怪の存在の大きさを感じられました。

■『アニマル』

お父さんのお誕生日会からこの



曲をさせてもらって、コンサートでもダンサーとして出させていたできました。大好きになった曲のダンサーにならせてもらったことがすごく嬉しかったです。

でもその喜びに浮かれて、自分の至らなさがはつきりと出てしまった曲もあります。練習の時に、あゆちゃんに「あまりに精度が低い」と言わせてしまいました。確かに、お仕事組さんがたくさんいて、お休みが暦通りではなかったりもすることを言い訳に、あまり練習することができていませんでした。

個人練習はいくらでもできるし、少しずつでも集まることはできました。それなのに自分から行

動を起こさず、声がかからないからとりあえずいいかと流してしまっていました。本当に甘いと思います。

あゆちゃんに指摘をいただいてから、気持ちを引き締め、みんなで声を掛け合うようになり、ディテールを詰めながら練習できずごく楽しかったです。もともと好きな曲を踊れて楽しいと感じていたけれど、みんなで本気で練習して踊る楽しさは全くの別物でした。

狐のしっぽは特に難しくて、一人ひとりの腕の動きはもちろん、全体で少しでも呼吸がずれたり位置がずれたりしてしまうときもなくなくなってしまうので、たくさん



研究をしました。なめらかだったといってもらえた時は、みんなと心の中でハイタッチをしている気分でした。

■猫になったじゅりと

レンタル家族

数ある大好きなシーンのひとつです。

初めて脚本を読んだときは、私は猫の存在についてよくわかっていませんでした。

「ソファアでぐだーっとしていただけの猫でした」

この言葉の本質をつかめず、戸惑っていました。

いつか猫になってしまったことを後悔し、人間に戻りたいと思う

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

のではないか。そんな風に考えていました。

でも、お父さんが、

「猫的な人がいてもいい。みんながみんな目に見えて役に立つ人でなくてもいい。ただぼーっとそばにいて話を聞いてくれる人の存在も大切」

と教えてくださりました。

そして、集合などを通して何度も猫の存在についての話を聞くうちに、猫について理解が深まり、その素晴らしいさに気が付くことができました。

猫はありのままの自分を、人から受け入れてもらい、自分自身も等身大の自分を受け入れられる人。それができていなければ、無



理に役に立たなければと必死になっても、邪魔な存在になっってしまう。

自分のできることを、あるがままに苦しくなくやっていく。

「誰かのため」が「自分のため」にもなる行動ができる。

そんな猫的な生き方があると知れたことが、大きな発見でした。

脚本を読み込み、お父さんの話を聞き、猫への解釈が進む中、猫ってこういうことなのかと身をもって分かったと思えた瞬間がありました。

私は今回のコンサートで、つきちゃんやふみちゃんが中心となってくれている衣装係として、活動させていただきました。十二月になり、練習も係作業もかなり詰められ始めたころ、つきちゃんが、「今回ゆうはちゃんが衣装係にい



てくれて助かった」

という言葉をかけてくれました。何か大きな仕事をした後というわけでもなく、ただ偶然お風呂で出会っただけの時に。

その言葉を聞いたときは、何といわれたか言葉がうまく呑み込めないくらい驚きました。

コンサートにかかわらず、以前からなのはなの衣装部でいてくれるつきちゃんやふみちゃんが、コンサートでも多くの衣装を考案して、みんなが無理なく衣装を回せるよう、お仕事前の朝早くや夜遅くまで沢山のことを考え、細かく管理し仕事をこなしてくれている姿を見ていました。二人が経験を活かして、計画的に、けれど臨機応変に動いてくれていて、苦勞を



見せずに、みんなに対応していても本当に格好良かったです。

経験のない私は二人のように機敏に動くことができず、格好いい姿に憧れや希望を感じながら、二人の考えを横で聞かせてもらった、簡単な衣装チェックや準備を手伝わせてもらったりしていました。

できることが少ない分、二人のそばで見て学び、私にできることには誠実に仕事をしていたつもりです。けれど二人のように、全体をみて柔軟に動けないもどかしさがありました。

それでも、つきちゃんは私がいて助かったといってくれました。「いつもそばで見ていて、なんとなくでも衣装のことを分かってくれているから」



と。

その瞬間、劇で猫のじゅりちゃんや家族とお別れるシーンが頭をよぎりました。

家族は、じゅりちゃんが猫として、ただそばにいてくれたことを喜んでいました。そしてじゅりちゃんも、猫として家族と一週間を過ごし、何ができてでもなくてもありのままを受け入れてもらいつつ、そばにいて寄り添って過ごし、毎日を一生懸命に生きる家族に勇氣と元氣をもらっていました。

つきちゃんは衣装係としてそばにいてだけで喜んでくれました。できていることは少なくとも、今の自分の能力を受け入れて、その中でできることを割り振ってくれました。私は、そばで見て沢山のことを感じ、学ばせてもらいました。そばで見ていただけの時もある私はまさに猫だったのではないかなと思っています。

何もわかっていないのに手を出して邪魔をしてしまうよりも、そばにいてできることがあれば誠実に向き合う。

必死になって追い詰められなくても、それだけで役に立つ存在になれるのだと知りました。

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

「私、ねこ、やめないよ」

こう宣言するじゅりちゃんのセリフが大好きです。

猫として家族と関係をとりながら一週間過ごし、ありのままにいる猫になった選択が間違っていないことを確信し、これからも猫として生きていくじゅりちゃんの強い決意が感じられるこのセリフにすごく勇気と希望が感じられました。

このセリフでお客さんからも拍手が起こり、猫を受け入れるあたかい人がたくさんいるのを感じて、明るい気持ちになりました。

■閻魔様と天国、地獄

私も、そして多くのお客さんも

衝撃を受けたシーンなのではないかなと思います。

悪いことをした人は地獄へ、良いことをした人は天国へ。そんな勧善懲惡の常識を一気に覆されました。

天国へ行くか、地獄へ行くかは閻魔様の気分次第。そんなことがあっていいのか、と驚いたとともに、自分のこれから望みを見いだせたシーンでした。

私はこれまで、世の中のみんなから声をそろえて地獄行きだといわれるような人生を歩んできたと思います。

やさしさをなくし、モラルをなくし、自分の利益ばかり考える利己的な生き方。

過去の、巻き戻せない過ち。でも、それはもう関係ない。



今、私はなのはなににいる。

これからの人生を、より良い人生に変えていけるように、利他的な人間になれるように決意し魂を磨いていけばいい。

これまでの人生がどんなものだったとしても、良く生きたいと決意した瞬間から新たなスタートを切ることができると教えていただけで、それなら未熟な私でも、自分の未来を良くしていけるかもしれないと思うことができました。

また、このシーンでは、「奇数の人は地獄で、偶数の人は天国へ」というセリフや、狙った場面で笑いが起こったり、有頂天の話で「お」と納得してくださっている方がいたり、ここだというところでほしい反応をお客さんからいただけたことがすごく嬉しかったで



す。このストーリーがおもしろく楽しくお客さんの中にしみこんでいつているを感じました。

■『ボーン・フォー・デイス』

何のために生まれ、何のために生きていくのか。決意を示す曲。

天国でも地獄でも現世でも、魂磨きをするだけが尊いことに違いはない。

なのはなにに来て、お父さんとお母さんに導いてもらいながら、日々魂磨きをして成長を続けている。

傷を負った私たちだからこそ分かること、できること、それらを自覚し、目を背けずその使命を果たせる人であるよう、魂を磨きながら生き続ける。それが、なのはなで気が付き決意した今の私の

生きる意味。

地獄に落ちて、魂磨きをして、生きていく意味、生きていく理由を胸に刻み込み、決意を固めて、心も身体も生まれ変わって、新たな人生の段階を歩んでいく地獄の卒業生たちと同じ段階にいるのを感じられる曲でした。

この曲はコーラス隊とダンス隊の二つに分かれてはいるけれど、みんなが同じ志でいることを強く感じられました。同じ志を持つ仲間がこんなにもいる。これほど心強いことはないと思います。

そして、来てくださった方も、同じ気持ちになっていただけるよう、気持ちがかもりました。

あゆちゃんがダンスを見てくださって、一カウントずつ動きを止

(次ページへ続く)





(前ページからの続き)

めて、細かくそろえて練習を重ねました。確実にみんなが一体となっていくのを感じ、ダンスの中に、あるべき静寂が作り出されたときも感動は今も残っています。

こうでなければいけない。

そう感じる動きがみんなとでき達成感が嬉しかったです。

■リトル・トリーに

会いに行く

リトル・トリーのまりかちゃんのセリフごとに拍手が起こり、改めて会場のあたたかさを感じました。

白人のかにちゃんとさとえちゃんにはいつも見惚れてしまいます。二人がキーワードを言っているわけではないのに、二人のおか

げでその後の物語の深さが増しているように感じます。華のある人というのはこういうことなのだなと思いました。

そしておばあちゃんの、

「これまでも充分、大きな幸せに包まれてきましたよ」

とセリフで拍手が起こったときには、そうだよなと、お客さんと一体の気持ちを得ることができた感覚があつて嬉しかったです。

それからおじいちゃんの、「トレイル オブ ティアーズ」の話。

少しずれているかもしれないませんが、被爆地で生まれた私は小さいころから平和教育を受けてきました。体力のない子供や年老いた人が次々に死んでいったこと、誇りをもって勇敢に生きた人々。そういった写真や話を見聞きした覚えがたくさんあつて、おじいちゃん

が話すアメリカインディアンの人たちの姿も容易に頭に浮かび、胸が苦しくなりました。そこから私たちは幸せをどう考えるべきなのかという答えにつながった場面では、通しの時から何回聞いても毎回涙があふれてきます。

物理的な豊かさを手に入れて一見幸せそうに見えたとしても、目標を見失ったまま走り続けるむなし日々。

理解し理解されること。それが愛。それが積み重ねて過去を振り返ったとき、幸せだったと感じることが出来る。

それを知って、私はなのはなに來なければ一生、本当の幸せを知ることではできなかっただろうなと思います。

「理解し合う日々を一日一日、積



み重ねること、それが幸せになることだったんだ」

大好きなセリフで、袖にいるけれどいつも同じ気持ちで心の中でこのセリフを言っていました。

当日も同じようにこのセリフを心で言っていると、舞台袖からうなずいているお客さんの姿が見えました。その姿を見た瞬間、胸に熱いものがこみあげてきました。

ああ、あの方に届いたのだ。伝えることができたのだ。そう思うことができました。

袖からだだったので、一人の方しか見えませんでした。たった一人でも、誰かの心に届いたと分かって、自分の中でこのセリフが一段と重みのある大切なものになりました。

■未来のシーン

私たちのこれからを宣言する大事な場面。

ここでは、たけちゃんも座敷童子としてステージに立つてくれました。堂々となのはなファミリーのコンサートに立ち、セリフを言い、お客さんから沢山の拍手を受けるたけちゃんにすごく希望を感じました。

私はギターアンサンブルで、たけちゃんの姿を一度もきちんと見られたことはないのですが、ギターとびつたりたけちゃんのセリフが聞こえてくると、たけちゃんと気持ちがそろってコンサートを作れているように思えて嬉しかったです。

そして「K I N N H F」。

理解し合う、なのはな農場。

これは遠くない未来の話だと思っています。

「世の中が、利己心の社会から利他心の社会に変わった」

未来の人がそう話すことのできる世の中を作っていく。それだけの力が私たちにはある。そのことを自覚し、夢物語ではなく本物にする。そのことに誇りをもって生

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

きていくのだと強く心を固めていくことのできる場面でした。

■ラストシーン

最後の最後にもう一度、少し学生の出番がありました。

物語の最初と最後をつなぐブックエンドとなる役。

実際にぐちゃぐちゃになった車を調べて、気持ちを作るところから練習を始めました。



ここは、「何を言っているのかわからない。言葉が流れてしまっている」とよく指摘をいただくシーンで、特に練習に苦戦しました。けれど、ほのかちゃんが何度も練習に付き合ってくれ、個人練習ではかにちゃん、みつきちちゃん、なつちゃんが声をかけアドバイスをくれ、沢山のスパーマンに助けられながら作り上げることができて、練習がとても楽しかった記憶となっています。

本番の後には、みつきちちゃんが、「どんどんグレードアップしていったね。今までで一番いいひえー、この人だったよ」と言ってくれて、スパーマンたちのあたたかさに感謝でいっぱいになりました。

■『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』

コンサート最後の曲。みんなでぎりぎりの全力を、すべてをさらけ出した曲。



さやねちゃんが中心となつてくれて練習を進めました。その時さやねちゃんから本当に熱い思いを感じて、その思いをみんなですらに強いものにしていくことができたと感じています。心が壊れそうなどきも、内側がさらけ出されそうなどきでも、ショーは続いている。このショーが終わることはない。私たちはショーマンとして生き続けていくことしかできないのだ。そのことを分かり、覚悟を決めて踊らなければならない。

みんな強く同じ意志をもって、一体となり表現をしました。私たちの生き様。それを包み隠さずすべて魅せられるように。

コンサートの集大成として全員でこの曲に表現できたことが嬉し



かったです。

緞帳が下りはじめ、物語が終わったとき、目が潤んできました。全力をささげた三時間がものすごく楽しくて、気持ちよかったです。

■舞台挨拶

お父さん、お母さんがステージに来てくれて、緞帳が再び上がり、みんなで並んで挨拶をしました。その時にやっと落ち着いて客席をしつかりと見ることができました。

私たちはこの方たちに届けていたのだ。この中で、たった一人でも、コンサートを通じて明るい未来を見てくださった方がいるかもしれない。そう思うと、私たちのこれまでがとても誇らしく感じました。

勢ぞろいで三列に並ぶと、ギョツとなって、改めて私にはこんなにも多くの家族が、理解し合える仲間がいるのだと思うと、今この空間に居られることが何よりも尊く思えました。

お父さんがあいさつで話してくださったことは次の準備で残念ながららゆつくり聞くことはできませんでしたが、落ち着いたところにお

母さんの話になり、そこでこらえていた涙があふれてきてしまいましたが。

「この子たちは必死で生きてきたんです。やさしいから、頑張つて必死に生きてきたんです。これからきつといい人生を歩いていきます」

泣きながらなので正確に聞き取れていないかもしれませんが、お母さんの言葉で、お母さんの大きな愛を感じました。

ずっと望んできた、本当の愛にあふれる世界がなのはなにはあると改めて思うことができました。

■『ホワイト・フラッグ』

物語の幕が下りた後、真っ先に永禮さんのあたたかいアンコールの声が聞こえ、あいさつの後、最後に『ホワイト・フラッグ』を踊りました。

何があろうと屈しない。死んだふりして、見ないふりしてやり過ごす、それは絶対にならない。

やさしい世の中が来る日まで、利他的な社会にしていくなために私たちは挑み続ける。決して白旗をあげることはない。

なのはなのすべてが詰まった大(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

きなこの曲を、アンコールでみんなと踊れたこと。思い出すだけでも胸がいっぱいになります。

力強く、今の自分の精一杯を詰め込んで、すべての演目が終了しました。

ウィンターコンサートを通じて、本当に沢山の仲間がいることを実感することができました。

各地から卒業生やボランティアの方々が集まってくださり、ぎゅうぎゅうに肩を寄せ合って当日昼食をいただいたとき、本当に恐れることは何もないんだと思うこ

とができました。なのはなを好きでいてくれる、なのはなに希望をもってくださる、同じ志を持つ仲間がこんなにもいる。

お父さんの脚本を、こんなにもたくさんの方に支えられて、舞台で表現できることが本当にありがたかったです。

食事は、ホール入り期間中も毎食あたたかくて豪華な食事を用意してくださっていて、とても驚きました。美味しい食事を用意してくださり、古吉野に帰るとすでにあたたかいお風呂が用意してあり、台所さんたちの偉大さ、あたたかさが、毎日身体に染み渡りパワーをもらうことができました。

照明班さんも試行錯誤を重ねて最高の演出にしてくださり、撮影班さんはその最高の一瞬を永遠のものにしてくださり、他にも私の見えないところで沢山の方の力があつて当日を迎えられたことが感謝でいっぱいの気持ちになりました。

そして、見に来てくださった方がたくさんいたこともすごく嬉しかったです。曲では、『ウェイ・アップ・ロメオ』でかなり早い段階から手拍子をくださり、劇中でも何度も笑いや拍手が起こり、お客さんのあたたかさに包まれたス



テージとなりました。そのあたたかな反応で、声が大きくなり、気持ちが高まり、さらにさらにと良いステージにしていけることができました。今までの努力の練習過程はもちろん、受け取ってくれる方がいて初めて本物にすることができるとののだなと知りました。

スポットを浴びて、多くの方に反応をもらいながら表現できる人生。どれだけ恵まれたことか。最高のカードを引いたと心の底から思います。

みんなで三か月間、本気で挑み、作り上げてきたコンサート。無事成功させることができて、大きな達成感と喜びを得ることができま

した。何かに向かって、仲間と全力を出し努力をしていくことがこんなにも楽しいんだなんて、初めて知ったかもしれません。この経験は私の人生でかけがえのない財産です。これからどんなに苦しいことがあっても、このコンサートが支えになってくれるだろうと確信しています。

■実現させられるように

今回のコンサートは、これまでの私の生き方を覆すものでした。「理解と愛にあふれる人生をすごしたい」

そんな純粋な願いを、周囲の環境に、打ち消されて、心に傷を負って生きてきました。

どうにかして空っぽの心を満たしたい、幸せになりたい。そのために特別でいなければいけない。

物語の主人公と同じように、必死にもがいて苦しんで生きてきました。

普通になりたいと思いつつも、愛情を得るためには特別でいなければいけないと思いつつも、焦り追いつめられる毎日。いま幸せを感じることができないから、未来の幸せを追い求めて、目標を見失ったまま走り続ける。けれど

いつまでたっても幸せになれず、むなしいままで絶望する。間違った考え、生き方ばかりしてきました。

コンサートから、特別であろうと焦らなくても、苦しまなくても、ありのままの姿で周囲と、理解と愛のある良い関係を取っていくことができることを知りました。

その中で小さな理解の積み重ねを大切に、今感じられる幸せを大切にして生きていけばいいと知りました。

今なのはなでは苦しみを共感し、喜びを共感し、あたたかい家族との理解あふれる生活をしていきます。

その幸せを、幸せだと気が付くことができるかどうかは自分次第。いま自分がどれだけ恵まれた環境にいるか、改めてよくわかりました。

この幸せを広げていけるように、この日お客さんが見た世界を実現させられるように。

物語の幕は下りたけれど、私たちの「KINNH」は幕を開けたばかり。

世の中をあるべき姿にしていける良い生き方を求める。そのことに誇りをもって生きていきたいです。

よしえちゃんの門出

なお

ウィンターコンサートから一週間、なのはなファミリーのみんなにとって嬉しい節目が訪れました。

十二月二十七日、お仕事組のリーダーとして、そしてなのはな

のみんなの憧れのお姉さんとして 私たちと共に歩んできたよしえちゃんが、パートナーである恵平さんとの新しい生活へと出発しました。

よしえちゃんの出発は、ちよつ



ぱり……いやとつても寂しく、でもその寂しさの何十倍もの喜びがありました。お二人がこれから家族を築いていくことを思うと、希望と幸せが広がっていきます。

■お祝いの朝

よしえちゃんの出発の日に向けて、お仕事組のメンバーで密かに計画を立てました。ひろちゃんの発案で、最後の平日の朝食をお祝い御膳にしました。花形人参と錦糸卵で彩られたちらし寿司に、すまし汁。いつもの朝食にほんの少し手間をかけて、よしえちゃんへの感謝を形にしました。

それから、なのはなでの日々が詰まったフォトアルバムも作りま

した。アルバムを作りながら、よしえちゃんとの生活を振り返りました。ウィンターコンサートでコーラスを歌うよしえちゃん。魅力的な猫役の表情。父の日や誕生日会での華やかな衣装。フル馬拉ソン完走後の清々しい笑顔のよしえちゃん。夏祭りの浴衣姿。キャンプのファッションショーで新聞紙のウェディングドレスを纏っていたよしえちゃん。写真を見て思い出すのは、誠実に、謙虚に、目の前の人を大切にしながら、なのはなでの毎日を心から楽しんでいったよしえちゃんの姿です。一日一日を丁寧に生きることの積み重ねが、誰かの希望になり、素敵な縁へと繋がっていく。よしえちゃんはそれを体現してくれていました。

よしえちゃんは、いつも気持ちに寄り添ってくれました。困っているときには必ず「一緒にやるよ」と行動で示してくれました。そんなよしえちゃんに、どれだけ支えられてきたことがか。

■よしえちゃんの生き方

二〇二五年の夏、私は諏訪神社方面の田んぼをよしえちゃんとなるちゃんと一緒に担当しました。

よしえちゃんの粘り強さと、体力・気力を実感した日々でした。仕事に行く前の朝五時過ぎからの見回りに始まり、仕事から帰って日没までの草刈りや水の管理。田植えや稲刈りの時期には有給休暇を取ってみんなと田んぼへ出るよしえちゃん。よしえちゃんは何年も諏訪方面の田んぼの担当をしていたので、夏は毎年こんな風になんぼを管理しながら仕事に行っていたんだ、ということを知りました。なのはな様々な場面で力を尽くしながら、私が私がと前に出るのではなく、

「私は何もしてないよ。みんなが助けてくれるから！」

と、いつもみんなを立てて、謙虚に穏やかに微笑んでいました。一緒に過ごす中で、その言葉の裏にある強さと優しさを、私はいつも感じていました。上品な佇まいを保ちながら、困難には微笑みを絶やさず立ち向かっていくよしえちゃんは、本当にかっこよくてきれいでした。そして、責任をもって役割に向かいながら、決して一人で抱え込むことはなく、誰かを一人にすることもありませんでした。一人にならない、一人にしないというよしえちゃんのありかた

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

が、本当に優しいことなのだと感じました。

お仕事組ではシフトの都合で早く出勤する人や遅く帰る人もいて、よしえちゃんはそのみんなの状況を把握して一人ひとりのことを気にかけてくれていました。夜にはホームページの編集作業もしていて、遅くなることもあったと思います。それでも翌朝には、優しい笑顔で仕事組の朝食準備に立っていました。私が寝坊をしてしまった時には、よしえちゃんが、「無理しないでね」と起こしに来てくれました。笑顔で行ってきますと仕事に行き、帰りましたと笑顔で帰ってくる。よしえちゃんの生活のペースや気持ちはいつ



も安定していて、変わらずにくれることに本当に安心をしました。

よしえちゃんが仕事組のあるべき姿を体現してくれていたから、新しく仕事を始めるメンバーも、「よしえちゃんの背中を見て、ついていけば大丈夫!」

と安心してお勤めに出ることができました。なのはなファミリィの中にある「お仕事組ファミリィ」をいつもあたたかい場所として守ってくれていたのがよしえちゃんでした。

「自分のコンディションを整え、いつでもみんなのために動けるようにすること、それも利他心のひ

とつ」

利他心についての質問があったとき、お父さんとお母さんがこう話してくださいました。

そのとき真っ先に浮かんだのは、よしえちゃんの姿でした。思い返してみれば、よしえちゃんが自分の殻にこもっている姿を、一度だつて見たことがあります。よしえちゃんは常に外向きの、「なのはなファミリィのよしえちゃん」でした。いつでも、みんなのために笑顔で全力でした。よしえちゃんの日々の生き方は、利他心そのものだったのです。

■二人の姿

お父さんとお母さんが、よしえちゃんと恵平さんの馴れ初めを話してくださったことがあります。そのお話を聞いていると自然と頬が緩み、温かく幸せな気持ちに包まれました。未来に幸せを求めるのでもなく、保証を追い求めるのでもなく、ただただ日々を誠実に過ごしてきたよしえちゃんだからこそ、素晴らしい出会いがあったのだと感じました。

それは結婚に限らず、人生におけるすべての出会いや縁に通じると思います。自分に照らしてみる

と、私は今を疎かにして、良いことも悪いことも先を見すぎてしまふ癖があります。大好きで尊敬するよしえちゃんの背中を見て、私も謙虚に生活をしていきたいです。

まずは、よしえちゃんから受け継いだ『仕事組』を、いまの仕事組のメンバーと一緒に、「私もあんな風に働いていきたい!」とみんなが希望を持てるチームとして守り、育てていきます。判断に迷ったときは、(よしえちゃんだったかどうか?)というイメーヂをします。そんな風にして、いろいろな意味でよしえちゃんの後についていけるように、日々魂を磨いていきます。

出発の日、恵平さんがなのはなに来てくださり一緒に昼食をい



ただきました。二人が並んで笑顔でいる姿を見ると、こんなに嬉しいことがあるんだと涙が出てきました。

「よしえちゃんは結婚後もなのとはなど助け助けられるお互い様の関係を作り、恵平さんはよしえちゃんを通してなのにはなにつながり、二人で新しい世界をどんどんと広げていくくれると思うと、本当に嬉しいことだね」

お父さんがこう話してくれました。よしえちゃんと恵平さんと、新しい形でつながっていることも、とても嬉しく楽しみになりました。キャンプ、田植え、海水浴、縁日、夏のイベント、そしてウィンターコンサート。イベントがある日もない日も、お二人でたくさん帰ってきてください。

よしえちゃん、恵平さん、ご結婚おめでとうございます。



ゲストをお迎えして、

お餅つき大会!!

のりこ

餅つき、たとえばクリスマス、
クリスマスと言えば餅つき? な
のはなの餅つきは、十二月二十五
日、クリスマスの日に行なわれま



す。前日の二十四日は、みんながそれぞれの係に分かれて、餅つきの準備を行ないました。まず、もち米を洗う人は、今年は全部で七斗のお米を用意したそうです。私は、七斗という量が、どれくらいなのか想像が付きませんでした。が、とにかくすごい量です。

■何度でもついていた

餅つきの当日は、朝からパラパラと雨が降っていました。空模様とは関係なく、みんなの表情は晴れやかでした。朝早くから、松山さん、永禮さん、前川さん、須原さんがみえて、頼もしい男性陣が、来て下さいました。そして雨の中、準備をして下さっている姿を見て、感謝の気持ちと、いよいよ餅つきが始まるぞ! というワクワクした気持ちが高まってきました。

餅つきは三か所に分かれて行

ました。体育館を出た所にある石臼、木臼。そして体育館内の餅つき機です。

私は、石臼についてお餅をつきました。

餅を搗く前に、まず臼と杵をお湯で温めておきます。そして、蒸しあがったもち米が、蒸し器に入ったら、臼の場所まで運ばれてきます。そしてもち米を臼の中に入れて、熱いうちに、三人がかりで杵でこねていきます。円を描くように、そして体重をかけて、もち米が大きな塊になるまでこねていきます。中心が盛り上がり、てくるのが上手くこねられている。印だと、松山さんが教えてくださいました。ここで、米粒が見えな

(次ページへ続く)





(前ページからの続き)

くなるまでこねることが重要だそうです。米粒が残っていると、その後搗いたときに、米粒が飛び散ってしまうそうです。

こねが終了したら、次は搗きます。これも二人か三人で搗いていきます。松山さんが、杵を振り下ろすときは、力を入れずに杵の重みだけで搗けばいいことや、搗いた時に少し手前に餅を引くこと、などを教えてくださいました。私は松山さんに教わったことを、ずっと意識して搗いていました。まえちゃんが、上手いね！と褒めてくれた時は、すごく嬉しかったです。自分でも、上手く搗けた！



と思った時、すごく嬉しくて、何度でも搗いていたい！という気持ちになりました。

そばで松山さんが、餅つきのコツを丁寧に教えて下さり、ずっと穏やかで優しい笑顔を向けて下さっているのが、すごく安心感を感じたし、嬉しくて温かい気持ちでいられました。

餅を搗く時は、みんなで、「ヨイショ！ヨイショ！」とか、「二ー！二ー！三ー！二ー！二ー！三ー！」など大きな掛け声を掛けるのが、楽しくて嬉しくて、餅を搗いている人も、周りにいる人も、みんながすごくいい顔をしていて、本当に幸せだなあと思いました。

杵には重いものと軽いものがあつたのですが、なのはなの皆は

■あおい君たちを迎えて！

力強いので、重い杵を何度も何度も振り上げて搗いているのがすごいなあと思いました。私は重い杵で搗くと、すぐにへたばつてしまうので、軽い杵を使わせてもらいました。来年は重たい杵を、軽々振り上げられるようになりたいなあと思いました。

この日は、たけちゃんの保育園のお友達、あおい君親子が来てくれることになっていました。十時三十分頃になって、あおい君のお母さんと、あおい君、お兄さんのたいが君が階段を上ってやってくるのが見えた時は、たけちゃんもとても嬉しそうだったし、私たちもみんなが歓声を上げて喜びま



した。たけちゃんやちいちの、あおい君を大好きに大切に思う気持ち、一緒に楽しい時間を過ごしたいと思う気持ち、たくさん喜んでたくさん楽しんで欲しい、と思う気持ちが本当に優しいなあと思いました。

あおい君たちが到着すると、早速あおい君とたいが君を餅つき会場に案内しました。二人が、すごく恥ずかしそうだけれど、すごく嬉しそうに、餅をこねたり搗いたりしている姿が、本当に可愛くて、すごく温かい気持ちにさせてもらいました。二人に対するみんなの言葉や、見つめる表情が、どれも優しくて温かくて、そんな中にいさせてもらえることが、本当に有難くて幸せだなあと感じました。こんな風に、ゲストの方が来



るのを、みんな待ち遠しく思う時間や、嬉しい気持ちで温かく歓迎できる時間が、とてもかけがえない時間だなあと感じました。

体育館では、搗きあがった餅を、丸めていきました。お母さんや、河上さんや、あゆちゃんが、丸め方を教えてくださいました。私は丸める作業には、少ししかなかったのですが、搗きあがった餅が柔らかくて温かくて、幸せな感触だなあと感じました。割れ目のないようにきれいに丸めるのがとても難しかったのですが、楽しかったです。

餅は丸もちと、豆餅と、生餅を作りました。豆餅では、餅をこねた後に、塩を入れてから搗き、搗

(次ページへ続く)



■松山さんのお話

(前ページからの続き)
きあがつたら最後に、黒豆を入れて、練り込みます。練り込むのは、松山さんが餅にまんべんなく広がるように、手早く混ぜていきまし
た。キラキラ光った黒豆が、松山
さんの手で、練りこまれていくの
が、なんだか手品を見ているよう
で、すごく感動しました。

昼食は、搗きあがつた餅を、ゲ
ストの方と一緒にみんなで頂きま
した。その時に回すみんなのコメ
ントも、嬉しい気持ち、幸せな気
持ちで溢れていて、お餅はすごく
美味しくて、本当に幸せな食事だ
なあと思いました。コメントが松
山さんの番になった時、私のこと
を話して下さった時は、すごく
ビックリしました。松山さんは、
去年と比べて、私がかも身体も大
きく成長した、と仰って喜んでく
ださいました。そんな風に言われ
ると、確かに去年、私は楽しい空
気の中に入っていたいけなかったし、
体力もなくて、杵を振り上げるの
も大変だったことを思い出しまし
た。松山さんとは、一年前のお餅
つき以来の再会でしたが、去年の
ことまで覚えて下さっていて、私
の変化をこんなに喜んで下さって
いて、本当に嬉しくて有難かったで
す。松山さんの優しさに胸が一杯



になり、そしてなのはなに来たお
かげで、こんなに丈夫な身体と
明るい気持ちを頂けたこと、いろ
んなことが嬉しくて有難くて、涙
がこぼれました。
前川さんは、去年初めて来て下
さって、今年は二回目だそうです
が、今年は有休をとって来て下
さったそうです。去年、餅つきに
参加して、また来年も来たいな
と思ってくださったことが、本当
に嬉しくて有難いことだなと思
いました。
永禮さんが作ってくださった
なのはなファミリー友の会から広
がった縁です。みんなが、来た
いなあと思いうのはなで、生活さ
せてもらえて、私は幸せだなあと
思い、これからも私たちがそんな
温かい世界を繋げ、広げていか
なければいけないなあとしまし
た。

サンタクロースからのプレゼント



クリスマスの朝、なにかとくべつな気配に胸を躍
らせて体育館へ行くと、リボンがあしらわれた、
かわいいカーディガンが！ それぞれにお似合い
の色、お揃いの暖かいカーディガンです。

門松作りの一日

ここの

年が明けて、気が付けばもう二〇二六年。楽しかった年末年始も終わり、今年も新たな気持ちで頑張っていきたいです。

少し、時間は遡って、十二月二十六日のこと。この日は、朝からパラパラと雪が降っていて、午前中の作業が始まる時には吹雪になっていました。

私は一日、門松作りをしました。須原さんと、さくらちゃんと三人での作業でした。もちろん初めて門松を作りました。初めに須原さ

んから、「門松には何を飾るのか」と質問されて、私は松くらいしか分かりませんでした。基本の松竹梅や南天、シダ植物や笹を飾ると

いうことを教えてもらいました。よく考えてみたら、あまりじつくりと門松を見たことがなかったなと思います。それから去年は二メートルの高さの門松を作ったと聞いて、そんな大ききで作ることができるのも、なのはならではという感じがして、すごいなと思いました。

■ 笑いい竹

まずは竹を取りに竹藪まで歩いていきました。吹雪のなか、須原さんに、

「門松作りの日が、こんな天候になるなんて」何か悪いことでもしたのか」

と言われましたが、私は吹雪の中でも門松作りをできることがとてもうれしかったです。

竹藪の中に入ると、高い竹がたくさん密集していて屋根のようになっていたので雪が降ってこなくて、別世界に入ったように感じました。さくらちゃんから、竹の節目が白くなっているのが今年の竹ということを教えてもらって、ちょうどいい太さでまっすぐ上に



伸びている今年の門松作りに適した竹を探していきました。見つけたら、下からのこぎりで切つて、思いっきり引つ張つて、広いところまで運びました。とても重くて、長いので勢いよく引つ張るのが大変でした。三本調達してちょうどいい長さに切つて、三人で古吉野なのはなまで持つて帰りました。私は、さくらちゃんと二人で二本持つてエッサエッサと一緒に運びました。

そのあとは作業棟の中で作業していきました。まず、竹を切つて門松の軸を作っていました。三本それぞれ高さを変えるのですが、調べてみると高さや位置もいろんなものがあつて、さくらちゃん好みのもので揃えていくことにしました。

割れないようにきれいに斜めにのこぎりで切つていくのがとても難しそうでした。その時、須原さんとさくらちゃんが、
「大笑いかな？ 小笑いかな？」
と言っているのを聞いて、
「何の専門用語だろう？」
と思つていたのですが、切り終わった断面を見て、一瞬でどういう意味だったのかを理解しました。竹を斜めに切ると、切れ目の部分の長さによって中の節の幅が変わつて、三角のお口ができていくように見えました。どんどん竹を切つていって、お口がたくさん並んでいくのがとてもかわいくて、みんな思わず笑顔になりました。

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

最後の竹を切ろうとなつて、いきなり私も出番がやってきました。初めは須原さんにやってもらい、私ものこぎりで途中から切らせてもらいました。「ものこぎりは引くときに力が働く」と聞いて、引くの意識して頑張つて切りました。難しかったし、腕が結構きつかったけれどいい経験になりました。

切れたら、三本を紐でくくつて、軸の完成です。

■着々と

ここからは午後に入つて、午後からはつばめちゃんも来てくれて作業をしました。次は、土台作りです。大きな桶の側面に、桶の表



面が見えないように黒いシートを張り、その上から桶の高さに合わせて切った竹を縦に四等分して、ぐるつと一周並べていきました。

しまった」と思いました。とてもいい勉強になりました。

そのあとバインド線でできつく結びなおして、上から黒い紐でバインド線を隠しました。その時に、さくらちゃんから、縁起がいいと言われてる「男結び」のやり方を教えてもらいました。やり方は簡単で二度、真結びをするのですが、結ぶときに上にくる側が二度とも同じになるように結ぶと結び終わりがきれいに左右対称になります。今回、門松作りではすべての結び方でやっていきました。なのはなでは作業によっていろいろな結び方を使い分けていて、もつと覚えて正しく使っていきたいなと思いました。

そしてついに土台の中に軸と

る竹を入れて基になる部分が完成しました。その間に須原さんがきれいな葉牡丹も買ってきてくれました。

■愛弟子にしてもらえたら：

そのあとは、材料集めに行きました。最初に玄関にさつき完成した土台をおろしてから、須原さんとつばめちゃんチームが笹の代わりに竹の葉、シダの葉、さざんか。私とさくらちゃんと、途中でお手伝いに来てくれた五歳のゆりちゃんが南天、松、梅。二チームに分かれて集めることになりました。材料集めの旅がゆりちゃんも一緒にとても楽しかったです。南天は、



さくらちゃんがつておきの場所があると教えてくれてワクワクしながら向かって、南天がたくさん広がっているのが見えた瞬間、まるでお宝発見みたいな冒険をしている気分になりました。どの植物も立派ですぐ近くでこんなにくさんの植物が手に入るのが素敵だなと思いました。

集まったらまず、土台の中に、もみ殻を八分目くらいまで敷き詰めて、その上から土をいっぱいになるまで入れました。そしていよいよラストの飾りつけに入りました。つばめちゃんと私が正面から見て左側、さくらちゃんとゆりちゃんが右側をやつていきました。私はつばめちゃんの美的センスに任せながら、アシスタントとしてやっていて、葉牡丹を正面に植えてから、バックの植物たちを色や形のバランスを考えて挿していくのがとても難しかったです。私は、小学校の時に学校のクラブで生け花をやっていたのですが、その時の難しさを思い出しました。それでも二人で試行錯誤しながらやっていくことが楽しかったです。完成したものは左右でそれぞれ違いが出て、それもまたきれいでとてもうれしかったです

(次ページへ続く)

す。正月のおめでたい雰囲気が出
て一気に玄關がはなやかに
なと思いました。

そのあと余った材料を使ってゆ
りちゃん用のミニ門松も作りまし
た。ゆりちゃんが竹に顔も書いて
くれて、とてもかわいくできて、
のぞみちゃんも喜んでくれたこと
が私もうれしかったです。

この日は、一日でたくさんいろ
んなことを経験しました。初めて
知ること、見ることで、な
のはなに来なかったら経験するこ

とのなかった出来事を経験させて
もらえる毎日が本当にうれしいで
す。私を建築係としてぜひ須原さ
んとさくらちゃんの愛弟子にして
もらえたらいいと思います。

今年も始まってまだ少しです
が、楽しみなことがたくさん待っ
ていることがとてもうれしいで
す。みんなとの時間を大切に
今年誕生日占いで言ってもらっ
た「開拓者」という言葉を目指し
て積極的に活動して、いろんな道
を切り開いていけるように頑張っ
ていきたいです!!

十二品目のおせち作り!

白熱のきんとん練り

ほし

新年を迎えるために、欠かせな
いのは、おせち料理です。私は、
おせちをみんなと作る時間が好き
で、この時を楽しみに待っていま
した。

私のチームは、栗きんとんを作
る担当になっていました。

前日から、みんなが材料を用意

してくれていた、下処理をして
くれていたりして、調理当日、家
庭科室に入ると、同じチームのこ
このちゃんが、「待ってました!」
と迎えてくれて、そのことがすご
く嬉しかったです。

私が合流した時には、芋は茹で
られていて、これから、砂糖と塩



を合わせ、練る段階へ入るところ
でした。

きんとんには、今年、なのはな
で初めて育てた紅あずまだけが使
われており、鮮やかな黄色をして
いて、おせちに入れても、映える
だろうな、と思いました。

おせちづくりには、河上さんが
来てくださり、おせちづくりでの
大事なポイントなどを随所で教え
てくださいました。

最初は、三人で木べらを持って、
ぐるぐると回していたところ、河
上さんが助言をしてくだしまし
た。

練るときは、全体を回さないと
いけないから、できるなら、一人
で練ったほうがいいよ、と教えて
くださいました。

そのことを聞いて、一人できん

とんを練るとなると、かなり力も
体力も必要になってきます。

そのとき、そばにいたりゆうさ
んが、「僕、やってみるよ」と木
べらを手に。

両手でヘラを持ち、思い切り力
強く鍋全体をグルグルと回して
くれています。

それも、十五秒混ぜたら、次の
人、とりゆうさんが次に回して
くれました。

次には、このちゃんが混ぜて、
ゆうはちゃんが混ぜて、と交代し
て、それが、物凄くテンポが良
なっていました。

自分が混ぜた時は、かなり、力
も必要で、りゆうさんのようには
混ぜられなかったけれど、足を肩
幅以上に開いて、回すと、力が込
めやすく、コツをつかんできた感

じがしました。

「二、一、三……十五!」

「次!!」

と、まるで、トライアスロンを
しているかのような空気で盛り上
がりが生まれました。

他のチームからも、えつこちゃ
んやなつみちゃんや、相川さん
も来てくださり、全員で交代して
きました。

みんなが息を止めて、練ってい
ました。

みんなの顔は、赤いけれど、爽
やかな表情が浮かんでいました。

きんとんづくりは練るのに苦戦
して、一時間以上かかっていた年
もあったようでしたが、みんなと
全力でつないだ白熱のきんとんの
練りで、約半分ほどの時間で、良

(次ページへ続く)





(前ページからの続き)
い艶になっていきました。
河上さんも「これで、良い感じだね」と話されていました。
みんなの全力が籠ったきんごんは、絶対に美味しいだろうな、と思いました。
この日に至るまでも、他のチームのみんなからも、煮しめを作る

大晦日、おせちをお重に詰める時間も大好きで、嬉しい気持ちで溢れていました。
なるちゃんが、
「同じ色が隣り合わせにならないほうがいいんだよな」と話してくれて、特に色味を意識して詰めていくことにしました。



台所ではブリの照り焼きなどの調理も！

■食べてくれる人を想って

ときには、相川さんが人參の飾り切りをしてくださったということや、叩きごぼうを作る際、ごぼうを叩くみんなが力強くかつこよかった話を聞いていたり、しなこちゃんがぶりの照り焼きを焼いてくれていたり、それぞれの場面で、嬉しい気持ちや温かい気持ちが生まれて、みんなの気持ちが籠ったおせちづくりだな、と感じました。

煮しめの横には、カブの甘酢漬け、黒豆の横にはきんごん、といった風に、ぱつとみて、鮮やかで華やかな見た目を目指しました。

そして最後には、エビの甘煮とぶりの照り焼きをのせて、仕上げに南天を添えました。

自分の詰めたおせちが、誰にわたるかは元日の朝まで分からなくて、相手の人が心地よく新年を迎えられるように、と気持ちを込めながらおせちを詰める機会があったいな、と思いました。

それぞれのお重には、ダイナミックに南天が飾られているものがあつたり、栗きんごんの上に南天の実が二つ乗って目のようになっている可愛らしい見た目のものがあつたり、それぞれみんなが気持ちを込めて詰めてくれているのを感じました。

こうして、なのはなで、お正月の文化や伝統を経験して、つないでいけることが、恵まれていて、ありがたいことだと思いました。

元日におせちを頂いて、「今年も、良い一年にできますように」という新たなけじめで、朝を迎えられました。おせちづくりを通して、豊かな気持ちを味わうことができました。

エビのうま煮、ブリの照り焼き、紅白なます、赤カブの千枚漬けに、叩きごぼう。

伊達巻き、田作り、紅白かまぼこ、煮しめ、きんごん、数の子、黒豆の煮豆。

チームで作った料理をお重に詰めました！ コンサート後から、大掃除や年越しの準備をして駆け抜けた大晦日。みんなで年越し蕎麦をいただいたら、紅白歌合戦が始まります！



さあ、仲間と一緒に全力ステージ!!

NHF紅白歌合戦

かのん

大晦日の夜と言えば、NHF紅白歌合戦! 紅白歌合戦、それもののはな版です!
一週間のあいだ、準備や練習を重ねてきて大晦日の夜が本番でした。

本当に準備の時間があっという間で、これまでで一番と言ってもいいほど準備の過程がすつごくすつごく楽しかったです(笑)
私のチームのメンバーは、まなかちゃん、ほのかちゃん、つばめ



自分がこんなにものびのびと自然体でいられる場所があって、自然体を受け入れてくれる仲間がいる事が本当に幸せです。

今回の紅白や、この一年間で、なのはなファミリィが、自分ののびのびとして自然体でいられる場所になっていること、私を受け入れてくれる仲間がいることに気がきました。

私はなのはなに来る前、これが自分の自然体だと思っていたけれど、その時の自分は自然体じゃなかったこと、本当の心の底からの自然体でありのままにいられるという事は、お互いがあるのまますけ入れて、かつ支えあい、心がのびのびしていているだけで気持ちが良い事だったんだ! ということを知りました。

そういう気持ちを教えてもらい、気づかせてもらったからには、次は自分が誰かに、ありのままにいられる場所があること、ありのままの自分を受け入れてくれる仲間がいることを伝える側、包み込む側になります。

それを伝えられる人、誰かにとってそんな存在になれるように、自分も人を受け入れる気持ち、それをちゃんと磨いていこう。そう思いました。

■幕が開いて

よーし! 午後七時から、紅白歌合戦の始まりです!

最初のオープニングは、りゅうさんチーム!

曲は『シェイプ・オブ・ユー』です。音楽室に入ると、もうびつくり、カラフルでものすごく背の高い人が後ろを向いてスタンバイされていました。

それはまさか、なのはなファミリィのコンサートを見てなのはなファミリィの紅白歌合戦に出場したくなった、閻魔様のお兄さん!(りゅうさんでした)(笑)。

前を向いてくれるだけでも面白かったり、話し方も素敵で、一発目から笑ってしまいました(笑)。

それはみんなも同じで、みんなの笑い声がバツと音楽室たくさんに聞こえる瞬間が嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

みんなが笑顔になっている、それは、なのはなにいたら当たり前になってしまふけれど、当たり前なんかじゃない、本当に幸せなこと、そう思いました。

曲中では、あやちゃんやゆうはちゃんが、「あなたの願いは何で」(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

すか」と言う合いの手に、凄くキュンキュンさせられました(笑)。

それと、今回はじめて使ったということだったのですが、なのほなを応援してくださいっている方からいただいた衣装を使っていたという事でした！

その衣装がまた新しい感じかわいくて、凄く素敵でした。

オープニングが終わると、紅白対決がはじまります!!

最初の一チーム目は、「虎・寅・トラさん」というチームでした。

何が始まるんだろうとワクワクしていたら、ドアがガラッとしひろこちゃんが、にこにこしてト



ランク風のカバンをもってゆつくり歩いていました。何かそれだけで面白くて、笑いが起こっていました。そのひとはさすらいの虎さんでした!!

と思つたら、またもやドアがガラッ。心に虎を飼っているななほちゃん、かわいいうさぎ(ゆりちゃん)が登場しました! その姿が凄く可愛くて、癒されたなと思います(笑)

三人が揃つたと思つたら、そこから、自分の中の困つたところを虎やうさぎの動物になぞらえて劇にしている姿が凄く胸に刺さりました。

心の中の感情の起伏が激しいことを虎にたとえていたり、空気が浮読めずマイペースすぎて自分が浮

いていることに気づけない、ということをはんわかしうさぎにたとえて、そんな要素を捨てて猫になります! という流れが凄く感動的で胸がいっぱいになりました。

なのはなでだからこそ、自分の成長したいことや自分の課題をこの紅白のせて笑い飛ばせる、捨てられるなと思いました。さすがなのはなの紅白で、紅白のいいところで、好きなところだなと改めて思い、さらに紅白が好きになった瞬間でした。

今回は出番が終わると、二〇二五年を漢字一文字に例えたら、どんな年だったかというインタビュに一人ひとりが答えました。それも聞かせてもらっていたのですが、漢字一つの文字でもた

くさんの気持ちが含まれている。と思いました。

なんでその漢字を選んだかを聞き終えた後では、漢字一つに對しても感じ方が変わり、誰の漢字を聞いていても感動したなと思います。

それに、紅白や漢字だけでも、二〇二五年がその人にとつてどういう一年だったのか、という事など、一人ひとりについて理解が深まっていくのが凄く嬉しかったです!

■可愛くて残念な動物たち!?

よし! 紅チームに對する白チームは『アニマル』チーム、ゲストの相川さんも入ってくださったチームです!



チーム名は、「カード扇デュエル・アニマル」でした。コンサートの登場人物であるカード親父のその後、カード親父辞す、最終回という前置きから一つの物語が始まりました。

もうそれを聞いただけで、面白くてワクワクした気持ちでいっぱいになりました(笑)。

大きく最初に言わせてもらおうと、カード親父(ゆきなちゃん)、カードを扱っている問屋のよっさん(よしみちゃん)がでてきて、カード対決、デュエルをするというような物語でした。

まさか、またカード親父に会えると思っていなかったので凄く嬉しかったですし、よっさんも可愛くて、もうドキドキでした。

私は今回の紅白でデュエルというゲームのことを初めて知ったのですが、そのリアル版をやつてくれました!

よっさんが、カードを引くと、かわいくてピンクなダチョウさん(さとみちゃん)がドアをガラッとい開いて走り込んできて、本当によっさんのカードの通りに召喚されたようでした!

召喚された後に、ダチョウさんやよっさんが、ダチョウについて(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

の豆知識を具体的にそれも面白く説明してくれていて凄くわかりやすく、勉強になりました(笑)

長所を言ったあとに、

「ですが、この奇跡のダチョウには、残念な部分があります。それは、

というように急に照明も赤になり、その動物の致命的な弱点が明かされます。

動物について知っていく時間もまた面白くて好きでした。

具体的な例って凄く面白い、動物って面白い、世界って広い！そう思いました。

次は、カード親父の番！ カードは、「上野動物園のパンダ」！



またもや、ここでもドアがガラツと開きかわいいパンダさん(さやねちゃん)が召喚されたようでした。本当にふふふわでかわいくて、目がウルウルするような可愛さでした(笑)。

そして次はパンダさんの説明を教えてもらい、衝撃的な事実がありました。パンダは慢性的な栄養不足の状態で生きていて食料である笹を大量に食べているがそのせいで、二十四時間下痢だという事、二十キロ笹を食べても十七キロそのままで出てしまう、子孫を残せる日が一年のうち二日しかない、などということを初めて知りました。自分の中では、衝撃的事実でした。

けれどそんな過酷な状況のパン



ダが自分のことを「可愛い最強！」と言って前向きであるのがまた面白かったです。

そうした対決や、動物の具体的な例が面白くて好きだったなと思います。

ちなみに最終回のバトルでは、今回紅白に初出演の、相川さんがいらっしやいました！

相川さんが変身していたのは霊長類の中で最速のパタスです！

パタスモンキーという種類のサルがいることもはじめて知りましました。

パタスモンキーさんの衣装が凄くかわいくて個人的に好きでした(笑)。それに、相川さんにも凄く似合っていて素敵だなー！ と思っています。



最後にはとうとう、カード親父がカード屋をやめるということになり、カード親父が自分で売れないカードを引き、それならということでの場にいるアニマルさんもカードを引く！ という展開で、クライマックスに近づきました。

その引いたカードの最初は、自分の良くない点だったり、マイナスな運命のカードなのかなと思うのですが、

「あれ！ カードの裏に何か書いてあるー！」

という展開で、カードが裏返った瞬間、涙が溢れそうになりました。

「優しい世界を築く人になる」というようなカードや、「心をオーブンにする」などというようなこと(言葉は違いますが)をカードに書いていて、それを見た瞬間、胸が溢れそうな気持ちでいっぱいになりました(笑)。

本当に面白くて感動的で、大好きな物語の一つになったなと思います。

■ホマイ姉妹

どのチームもインパクトがあつて、そのチームならではの物語がステージの上でどんどん広がっていきましました。

私が特に印象的に残っているチーム二チーム目は、「ホマイ姉妹」です！

最初、舞台に出てきたときのオーラや、衣装が、アフリカのよ

うな衣装ですごく素敵でした。

ホマイ姉妹さんが入ってきて、最初に皆が集まりポーズが決まった時に、みゆちゃんが、コンサートでも閻魔大王として言っていたみたいに、観客のみんなを見て「ちよつと多いな」と言っているところも面白くて、おもしろく笑ってしまいました。それぞれの珍エピソードをおもしろく劇にしてい

て、それがまた素敵で、それぞれ

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

一人ひとりがキラキラと輝いていて、好きだなあと思いました。

■コンサートのあの人が登場

ホマイ姉妹さんに対する白チームは、「今宵もここで会いましょう」のチームでした！ なにか題名からロマンチックで、どんなのが始まるだろうと興味しんしんでした。

それは、コンサートの中で出てきた脇役、車田隼人さんのその後の物語でした!!!

隼人さんはあるお店をやっていました。物語をざっくり言うとうと、

二人の女性が困っていることをそのお店で隼人さんや、しなこさんに話すという展開で、お店は癒しの場になっているということでした(笑)。

実際に、ひろちゃんだったら、結婚するよしえちゃんにサプライズをしようということを、お仕事組さんに伝えようと連絡をしてみたら、がーん。

よしえちゃんにもサプライズの内容をメールでおくってしまっていたというなことをリアルに劇にして表現している姿が凄く面白くて、リアルで、たくさん笑いました(笑)。

それに、そのことを隼人さんに相談したときの隼人さんのしゃべ



り方や雰囲気独特で、肯定的な言葉をかけている姿がまた面白くてお腹が痛くなるぐらいまで笑いました。

それに私も、癒しの場「HAYATO」に行ってみたい、なんて思いました。

お次の、紅チームは、ドキドキ私たち「7(なの)ちゃんねる」の出番です!

緊張しすぎてしまい、前のチームのインタビュー中に音楽室の外に出て気持ち作りをしていました。その時凄く緊張していたけれど、この短い期間で一緒に一つの小さな物語を作ってきた仲間と、大丈夫! 楽しもう! といった四人でぎゅーッ!! とできた時間が凄く幸せで暖かったです。

よし! 楽しむぞ! 四人で最高な物を作るぞ! という気持ちになることで、緊張が解けて楽しみな気持ちでいっぱいになりました(笑)。

本当に同じメンバーのまなかちゃん、ほのかちゃん、つばめちゃんが大好きだ!!! という気持ちで胸がいっぱいでした(笑)。

この数日間のことをすべて出して、みんなを思いっきり楽しませよう!

よし! そろそろ出番だ!

■不老不死サミット

今回、私たちの物語は、不老不死にまつわる人物や動物をテーマにしたものでした。

それを面白くして、テレビ番組風に、不老不死のサミットを開催させてもらいました(笑)。

登場人物は、何度燃えても灰から復活する、司会の不死鳥(私)。女性の血を吸って永遠を生きるヴァンパイア(つばめちゃん)。

間違えて人魚の肉を食べて永遠を手に入れた、鍛えまくっている八百比丘尼。

何度も再生して不老不死の効率を求めるベニクラゲ!

客観的に見たらどうかは、ちゃ

んとはわからないのですが、自分たちで一から作り上げた脚本をすべて表現できることの楽しさ、っていうのは本当に楽しすぎるんです!

それに何より、見てくれる人はなのはなの仲間だからすごく暖かい目で仲間が見てくれている、そう強く感じました。

だからこそ、自分の中の全力を尽くそうと思いましたが、最初是不死鳥が恥ずかしかったけれど、みんなを楽しませるためなら恥ずかしさが飛んでいきました!

今回の練習や本番で、客観的に見たらどうかはわからないけれど、役になりきる、役の気持ちになり自分を捨てる気持ち良さをしました。

自分をやりすぎて拘りすぎてしまつと苦しくなる。そう気づかせてもらいました。本当に不死鳥になっている時は何もかもが新鮮に見えて、また新しい世界を一つ少しだけ教えてもらったような気分になっていました。

それから、寸劇だからお客さんは何か会話を返したりはしないけれど、空気だけで一緒に会話している、ついてきてくれている、そういう感覚が嬉しかったです。

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

劇中では、ただの寸劇だけではなくて、自分たちの変わりたい点や、二〇二六年どうなっていくか! ということも込めさせてもらっています。

自分たちの気持ちを込めて、これからどうなっていくかという気持ちありでの紅白をさせてもらうからこそ、この機会に本当に変わっていかう、そうしてより前に進む気持ちや、変わっていかうという気持ちをもらいました。本当に大好きなイベントの一つです。

寸劇が終わったところ、最後、紅

白歌合戦という事もあり、歌を歌わせてもらいます!

『Too Much Love Will Kill You』がすごく大好きなので、今回まさかの生バンドで歌わせてもらうことができて、本当にありがたくて嬉しい気持ちでいっぱいでした(笑)。

チームのみんなと思いつき、この曲を歌うのが気持ち良くて、泣けてきそうほど嬉しかったです!! 少しボーカルさんの気持ちわかったような気がして、また新しい体験もさせてもらえて、ありがたかったなと思います(笑)。

曲の最後では、自分たちの作った替え歌やラップをできたこと、自分たちの気持ちを曲にのせられたことが気持ち良くて、ああ生きてるな! というような気持ち良さがありません。

曲の最後の最後には、「優しい世界をつくるんだ!」といって曲がおわったとき、やりきった達成感と感動が胸に押し寄せてくる感覚がありました。

よーし! 二〇二六年もより最高なものにするぞ! と、もつともつとさらに前に行こう! 進もう! という強い気持ちをもらいました。

最後にお父さんからのコメント

で、

「一人ひとりのキャラクターが立っていて良かった。それにキャラクターもそれぞれに合っていて、意外と自分のことをわかっていうことに高い評価を置いた」ということを聞かせてもらいました。

その時おもわずびくりしてしまいました。

最初は、不死鳥のキャラクターは無理無理、と思っていたけれど、練習するうちに好きになっていっていました。けれども自分ではない、と思っていた部分も少しあったので、まさかの合っていたというのを客観的にお父さんから聞かせてもらいびっくりしたけれど、個人的にそれがすごく嬉しかったです。



それに、劇をする中で、みんなが演じるキャラクターも、演じているその人のことも、とっても大好きになり、理解が少しずつ深まっていくのを強く感じたなと思います(笑)。

■なのはな藩のお侍

よし! 私たちのチームに対しての白チームは、「なのはな藩」でした!

それがまさかのこれまでにない感じの時代劇!! 江戸時代にいるようなお侍さんができていました。

二〇二五年のそれぞれの失敗談を劇にのせて、のん殿が、二〇二五年におこしてしまった、失敗談を話し、だから、切腹じゃ

あ! と言い切腹しそうになると、ドアが、がら! ももか殿が登場しました。

ここまでの展開でも、なにかドキドキハラハラしましたし、のん殿のリアルな演技がすごくおもしろくて、心がいい意味でくすぐられるような気持ちでいっぱいになりました。

ももか殿も、二〇二五年の失敗談を述べ、「一緒に切腹だあ!」となっていく展開で、またドアががらッと開いて同じようにえつこ殿がでてきました!

そこでえつこ殿も失敗談を述べて三人で切腹だと、なる前に千利休さんがおられました。そこでどうしたらいいかの答えが出るのか、という雰囲気にもついていきつつも、違ったという展開がまた面白くて、好きだなと思いました。

とうとう、最後は悲しい結末になるのかなと思っていたら、ここで、素敵な女性、超格好いお侍さん、「まこと殿」が参りました。そこでまだまだ今からやるべきことはあるという前向きな答えをもらい、殿さま方三人は、死ねないとなり、『ノー・モア・ハリウッド・エンディングス』が始まりました!

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

これまででない時代劇に自分たちの気持ちを乗せて表現しているのはな藩さんたちの寸劇や歌が凄く胸に刺さったなと思いました(笑)。

それと！ なにより！ チームみんながお待さんへアがすごく似合っていて、超・超・素敵でした(笑) もう可愛くてだきしめたい、そのようなかわいさで胸がいっぱいになっていました。

■パフォーマンスは続く！

次の紅チームは、「激しい奴ら」でした。



題名やメンバーからしてチームの色が濃くて、わくわくしていました。

そしたらびつくり。このチームはジェスチャーを使い、二〇二五年のなのはなのハイライトを全力で表現していました。その全力さやテンポの良さが好きで見やすく面白かったなと思います。

それに、題名で「お父さんのコンバイン」だったならば本当にお父さんのコンバインをしている姿が、このチームさんのジェスチャーにかさなり景色が見えました。

激しく全力でやっているからこそ、見させてもらう側も楽しめて、



ジェスチャーだけでたくさん笑わせてもらえたなと思います(笑)。

ジェスチャーだけで笑わせるということが本当に凄いなと思いました。私もこんなにも激しくて面白くて笑ったジェスチャーは初めてだったなと思います。

激しい奴らに対しての白チームは、「なのはなビリーバー」さんでした！

このチームはこのちゃん以外がお仕事組さんで、初めてみんな揃ってやったのは、ついさっきの休憩時間だという事を教えてくれました。

替え歌に一人ひとりの気持ちが込められていて、原曲とはまた違う、良さを感じさせてもらえたなと思います。それに、このちゃん

んの姿や、なのはなビリーバーさんの、黒とサングラスでカチツと決めた衣装がすごくかっこよくてキュンキュンしたなと思います。

次の紅さんチームは、ポーン・ホー・ティスの皆さんによる『ポーン・フォー・ティス』でした。

このチームさんも、二〇二五年の失敗を面白おかしく劇にして暴露しているチームでした。失敗を成功に変えられる場所がある、なのはな紅白歌合戦が素敵だな。そう思いました(笑)。

それと、まさかの！ コンサートで大活躍だったじゅりちゃんがウラテ衣装を着て登場していてその姿が愛らしくてかわいらしかったなと思います。

コンサートでの、知られざる失

敗を面白おかしく聞かせてもらう事で、つきちゃん、なつみちゃん、まみちゃん、りなちゃんに対しての理解も少し深まったような気がして嬉しかったです(笑)。

それにこのチームは本番のぎりぎりまで、脚本をよりよく変えていつていたらしくて、その最後の最後までよりよくして変えていくという、潔さがかっこいいなと思いました。

ポーンホーティスさんに対しての白チームは、リトル・マリーでした！

まりのちゃんの阿弥陀様のような優しい笑顔に胸を打たれたり、ちさとちゃんの優しく暖かい笑顔や、ゆりかちゃんの、包み込んでくれるような笑顔、そして、リトル・マリー(まりかちゃん)。もうこのメンバーがもうすごくかわいくて、たくさんたくさん癒されました。

曲は『へ・メレ・ノ・リロ』。歌いながら、曲中でまりかちゃん達が思いっきり「I KIN YE!」と言っている姿がすごく可愛かったです。それにまりちゃんが凄く凄くかわいらしいけれど、「I KIN YE!」という時は思いっきり力強く言っ

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

ている声が聞こえてきて、そのギャップやまりかちゃんの姿に元気をたくさんもらったなと思います(笑)

本当にかわいくて癒された時間でした。

■トリの舞台は……

最後の最後は！ お母さん、お父さんの対決でした！

紅チームはお母さん！ 白チームはお父さんの対決です！

まずは、お母さんの出演でした！ 今回の曲は『お月さまほしい』という素敵な曲でした。私も今回、お母さんの出演を盛り上げる役として、出させてもらえたこ

とがすっごく嬉しくてありがた

かったです。曲中、お母さんは見

えないのですが、お母さんの声だ

けでも心の底から力強い気持ちを

もらったり、何か自分が清められ

ていく、浄化されていく感じがあ

りました。本当にお母さんやお父

さんが表現する曲も大大大好き、

そんな気持ちでいっぱいでした。

それにみんなの歓声もびつくり

するぐらい、きゃー！ といっ

てみんな同じ気持ちなんだなと

思ってた嬉しかったです。

最後の最後に、お母さんのとこ

ろへ集まり終わるシーンがあるの

ですが、集まってくるときに、お

母さんと目があつた瞬間、本当に

満たされた気持ち、嬉しい気持ち

でいっぱいになりました。



紅チームのお母さんの次は、お父さんの登場です！

お父さんがミキサー席からステージに上がる時、さくらちゃん、さとえちゃんがエスコートして、周りのみんながきゃー！

と言ってお父さんに少しでも触り

たそうにしている光景を少し離れた

ところから、客観的に見させて

もらっていて、すっごく面白かつ

たです(笑)。

お父さんの曲は『傘がない』で

す！ 何度もこの曲をきかせても

らつているのですが、何度聞いて

もお父さんのこの曲が大大好き

だなと思います。

お父さんの力強い声が胸いっぱい

に広がり、自分にも勇気や強さを

た(笑)

それに、原曲で合いの手はない

のですが、なのはなのみんな

合いの手で、「お父さん！」「ケ

ニー！」と叫んでいたのも何か

楽しかったなと思います(笑)。

■仲間と理解しあう嬉しさ

二〇二五年最後の日、大みそか、人生の中で一番楽しかった大みそかになりました。

本当に、今こうして最高の家族

や、仲間がいることがとっても幸

せだということや、私にはもう、

本当の心から安心していられる居

場所があることを強く感じさせて

もらいました。

紅白歌合戦を通して、こんな未

熟な自分でも受け入れてくれる大

好きな仲間がいるということ、紅

白を通し、仲間の理解を深めてい

く、大好きな仲間を知っていく楽

しさや嬉しさを教えてもらったよ

うな気がします。

繰り返してしまうかもしれ

ないですが、今回の紅白歌合戦

では自分が知らなかった仲間の一

面を知れたり、大好きな仲間に対

して、理解が深まった部分が大き

かったなと思いました。

本当に仲間と理解し理解し合う

関係を作る機会があることが凄く

ありがたくて幸せだなと思いまし

た。よし！ 二〇二六年も「I

KIN YE！」の深い関係を築

いていこう！ そして仲間と「K

IN NHF」をつくっていこ

う！

大好きな仲間と二〇二六年も、

さあいくぞ！ という前向きな気

持ちで、二〇二五年紅白歌合戦の

幕が閉じ、新しい年が始まりまし



新しい一年、今の幸せを胸に刻んで

——二〇二六年の元日——

ゆうは



「明けましておめでとうございます」

お父さん、お母さん、家族みんなで食卓に並び、年に一度のあいさつをして迎えた朝。

NHF紅白歌合戦で一年の全てをさらけ出し、真新な気持ちで二〇二六年が幕を開けました。みんなで朝食の席に並び、新年のご挨拶。大勢の家族と共に新し

い年を祝うことができ、朝から心があたたかくなりました。

元旦の朝食は、おせちとお雑煮でした。十二品目がお重に詰まった豪華なおせちです。みんなで育てた野菜を使い、みんなで作って、みんなで詰めたおせち。おせちは今まで買うものだと思っていて、作るという発想がなかったの、みんなで作れたことがすごく嬉しかったです。しかも市販のものよ

りも品数が豊富で豪華でおいしくて。こんなにすごいおせちをみんなで作ったのだと思うと、誇らしい気持ちになります。

おせちにはひとつひとつ意味が込められていて、滋養もあり縁起のいいもの。それをみんなで作り、込められた気持ちが伝わるからこそ、さらに大切で一口ごとにその有難みをかみしめることができました。

お雑煮は、実家では食べる習慣がなくて、なのはなで今年初めていただきました。お出汁が透き通っていて、おいしくて、初めていただくのに不思議と安心するやさしい味わい。きれいなお出汁を作る技術を受け継ぐみんなが、すごいなと感じました。

お雑煮に入っているお餅もクリスマスにみんなで搗いたもの。もちもちとした触感と素朴な味で、口いっぱい幸せが広がります。もち米や野菜などの食材を作った過程はもちろんのこと、調理をしてくれた方、配膳してくれた方、私たちの食卓に並ぶまでに携わった人たちの顔を思い浮かべることができ、おいしい食事がいただけることが、本当にありがたいことだなと思いました。

一年の健康と幸せを願う、みんな

なの想いの詰まったお正月の朝食が嬉しかったです。



■抱負を胸に

朝食の後、みんなで食堂に集まり、お父さんとお母さん、みんなに今年の抱負を聞いてもらいながら、お屠蘇をいただきました。

歳の順に、整然と食堂の外に並び、ずらりとリビングのほうまで列が伸びていて、改めて、私にはこんなにもたくさんの家族がいるのだと実感することができました。

恥ずかしながらお屠蘇というものを私は知らなかったのですが、とても大切な文化を知ることができました。

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

研ぎ澄まされた清らかな空気をまとうみんなに、少し緊張しつつ食堂の中に入ります。

改めて新年のご挨拶をし、まずはお父さんのお話から。

二〇二五年のウィンターコンサートにどのような感想をいただけたか、そして二〇二五年はどのような年だったか。それから、二〇二六年の展望について。

混沌とした世の中になっている今を私たちはどう考えるべきなのか。利己心から日々たくさんの悲劇がうまれてしまう世の中で、なのはなはどうあるべきなのか。

より良く発展していくために、AIの活用や桃づくりなどで次々と新しい試みに挑んでゆくお話を



してくださり、私たち自らが良い未来に向かって道を切り拓いていくのだ、と感じました。

その新たな試みで成功するとは限りません。けれど、本当に意味がある、良い世界にしていくなための行動ができていたならば、神様にも伝わり、大きく発展できる一年になるだろう、と。

私たち一人ひとりが高い志をもって、なのはなで学ぶ利他心、気持ちを正しく持ち続ける限り、破壊はないだろうと私は感じました。

なのはなの、社会の、新しい一年を作る一人であることを自覚し、気が引き締まりました。

お話の後に、歳が上の順からお

父さんお母さんの前に出て具体的に抱負を言います。

私の大切な仲間であり家族であるみんな。

その一人ひとりの抱負を聞かせていただくと、思わず涙を流してしまいそうになりました。

みんなそれぞれ、自分の弱さ、苦しみがあり、それでもめげずに良くあろうと成長する姿勢を常に持ち続けている。

同じ気持ちで、高い志をもって共に生活できる仲間がこんなにいるのだと思うと勇気が湧いてきます。

抱負を聞きあう中で、お互いに励まされ、高め合っていることが感じられました。

そして、私自身の抱負をみんなに聞いてもらったことで、より強



く決意を固めることができました。

お屠蘇をいただく中で、ただ明るく新年を祝うだけでなく、自分を見つめて、なのはなで生活する意味、これからどう生きていくべきかを考えられた有難い時間でした。

■元朝参りへ

お屠蘇をいただいた後は元朝参りに行きました。

外に出ると、吹く風は冷たいですが、太陽のあたたかさを感じるほど良く晴れていて、とても空気が澄んでいました。



河原地区の方面にも、いくつかなのはながお借りしている田んぼがあり、そこをさらに進んでいくと、諏訪神社が見えてきました。

鳥居をくぐり、緑のトンネルのような素敵な参道を進み、本殿の前へ行くと神主さんがお祓いをしてくださいました。

それから、お賽銭をいれさせてもらい、御祈りをしました。

「幸せな一年を過ごせますように」毎年そんなお願いをしてしまっていたのですが、なのはなで過ごし、お父さんのお話をたくさん聞かせていただく中で、今年は違ったものになりました。

未来に幸せを追い求めているのは、今が台無しになってしまう。目の前のことを大切にできず、い

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

つも一人先走って空回り。それが苦しい原因だとも気が付かず、来ることのない幸せな未来を見つめて目標を見失ったまま走り続ける。

これまで初詣でお願いしてきたことは、まさにそんな間違った生き方の象徴的なものだったなと思います。

今年は神様をお願いを言うのではなく、良く生きていく、魂磨きをし続けるという決意を宣言しました。

そして宣言したからには、いつも神様が見てくださっている信じ、誰が見ていようと見えていない、誠実に謙虚に生きていかなければと改めて気を引き締めることができました。

正しいかどうかはわからないけれど、受け取ってくださる神様があなたかく見守ってくださればいいなと思います。

いくつもある社を一つひとつまわり、丁寧に、何度も宣言をしていきました。

そして最後に、立派な幹を持つ大木の下でお祈りをしました。

世の中の移り変わりを何千年も見守ってきた、大きな大きな木。

そのたたくまいから、永く命の炎をともし続ける自然の威厳が感じられました。

その木の下でお祈りすると神聖な気持ちになりました。

な気持ちになりました。

一通り参拝し終わると、みんなまた歩いてきた道を戻っていきましました。

コンサート、お正月準備と忙しい日々が続く、ゆっくり話す機会も減ってしまったので、みんなと穏やかに周りの自然と会話を楽しめた道中があなたかく嬉しかったです。

今まで疎かにしてしまっていた

た、日本の大切な伝統をたくさん体験させていただけですごく有難いなと感じます。

新しい一年を大好きな家族と、伝統を大切にしながらスタートできたことがすごく幸せでした。

この日、この時間の、この幸せをしっかりと胸に刻み、二〇二六年を良く生きていきたいです。

困ったコマ回し!? 跳ねて喜んだ羽根つき!!

うたな

のもなくなってしまう」

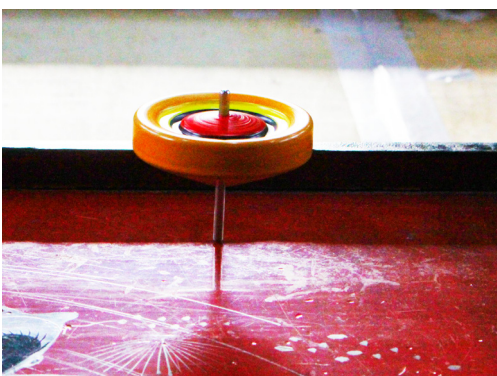
と教えていただきました。思えば、SNSを使ったアプリやゲームをするとき、機械と向き合っただけ無心で遊んでいる、そこに大事にすべき心があるのかと言われると、考え込んでしまいます。コマ回しや羽根つきをはじめとする伝統的な遊びには、その時期にやる意味があつて、込められた思いがあつて、一緒に遊ぶ相手がいる。

お正月遊び。なのはなに来るまで、私はお正月の伝統的な遊びをしたことがありませんでした。「どうして伝統文化を大事にする必要があるのか」という質問が集合で出たことがありました。そのときお父さんに、「伝統文化は、受け継がないと失われてしまう、失われたものは取り戻すことが難しい。失われるときは、伝統文化に関わる心そのも

受け継ぐべき理由があるのだと思いました。

■お正月遊びがはじまる!

前置きが長くなってしまいました。が、一月一日の午後、コマ回し・羽根つき大会が開催されました。……正直、不安だらけ。コマ回しは、去年全然できなかったのですが、事前に少し練習したのですが、三十分やって一回しか回らなかったのです。羽根つきは、去年は実行委員であることを理由に練習をあまりしませんでした。ちよつとだけデモンストレーションしたときに(あ、これは苦手だ)と感じたのを、感じぬふりをしてしまっていた。ネコになりきれない私(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

は、チームの役に立たなくては、と焦ってしまう気持ちがありました。そんな当時の私は、想像以上に楽しい経験ができることをまだ知る由もない……。

■奇跡の名人戦！ コマ回し

まずはコマ回し。軸のしっかりした人、などの意味があつて縁起が良いということを聞いて、お正月にする意味がすっかりあつたのだと分かつて、なるほどと思ひました。ふみちゃんチームの私たちは、お父さんお母さんと一緒にチームでした。去年バズったお父



さんのミラクルなコマ回しの動画を思い出しました。お父さんお母さんもお正月遊びの達人で、お父さんお母さんがしているのを見ているだけでも楽しいです。

手回しゴマ・糸引きゴマ・木ゴマ・アルミゴマの四種がありました。ビュンビュンゴマぐらいしか触ったことがなかったので、バラ



エティーに富んだコマの種類には驚きました。面白そうだったので、私は手回しゴマをさせてもらいました。練習でやってみると、意外とうまいこといって、指でスピンをかけて軽く投げると自立して回りました。ゆかちゃんと二人で出場。ゆかちゃんは、最初は回らなかったけど練習すると回り、さらに回っている時間も伸びていって、一緒にそれを喜べたのもうれしかったです。

練習時間は、私の隣でゆうなちゃんやお母さんが木ゴマやアルミゴマを練習していました。ゆうなちゃんの成功率がどんどん高くなっていって、お母さんも簡単そうに華麗に回していました。なんだかその光景が楽しそうで、せっかくなので木ゴマもやってみたくて、そなちゃんに教えているあゆちゃんの言葉を盗み聞きして、私もできるようになるかしら、とやってみました。しつかり紐を引く、できる人のストロークを真似する。何度か挑戦して、最後には二回連続回すことができました。難しい分、できたときの喜びが大きかったです。



そして団体戦がスタート。手回しゴマで出場する私は、練習ではかなりの確率で成功したので自信を少しもって挑みました。そして開始、回してみると……あれ、回らない!! 緊張で指が震えてプレッシャー負けしてしまいました。すぐくすぐく悔しかったです。困ってしまった、回しなかった……。

でも同じチームのみんなのコマ回しが神がかっていました。ゆうなちゃんが、初心者だったところから、本番ではきれいに回していました! ゆうなちゃんが投げたコマが直立して回った瞬間、時が止まった気がして、感動しました。お母さんの投げたコマは回っているのか止まっているのかわからないほどの安定感で、手で止めなければこのまま回り続けるのではないかと、思ってしまうほど美しく回っていました。

名人戦では、チームから四人ずつが投げゴマで出場しました。お父さん、お母さん、のぞみちゃん、ふみちゃんが出場した回。その時は訪れました。なんと、ボーナス得点の入る台の上でお母さんがコマを見事回し、それだけにとどまらず、続いているのぞみちゃん・ふみちゃんまで命中させたのです!

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

タン、タン、タンと、整ったテンポでコマが乗っていくのが圧巻で、鳥肌が立ちました。三人が飛ぶように喜んでいいる光景が忘れられません。

違うチームですが、あけみちゃんチームの挑戦も感動的でした。四人中三人が失敗してしまい、もうあとがない……そんなプレッシャーを抱えたひろちゃんが、きれいにコマ回しを成功させた瞬間！ 成功した途端、チームメンバーがひろちゃんに駆けよって、はしゃいで喜んでいて、敵チームだったけどすごくうれしかったです。

■羽根つきの嬉しさ

そんなこんなで、ダメダメだったけど楽しかったコマ回しが終了、続いて羽根つき大会へ。

羽根つきは、お父さんお母さんペアの安定感に圧倒されました。足の位置がほとんど動かなくて、二人の動きがシンクロしていて、羽根が毎回同じ軌道を通っている。よし、自分も思いやってみると、羽根は思わぬ方向へとうでしちゃうし、相手のふみちゃんを毎回バレーボールみたいに振り回してしまふ。しかも今回、新たに導入されたシステムで、人と人との



間は三メートルという遠距離に。羽根を遠くへ飛ばそうと思うと、強く打ちすぎてしまつて、コントロールがとても難しいです。

お父さんに、アドバイスをたくさんいただきました。その中でも一番はまった！ と思ったのが、「羽根が羽子板に当たるまで、羽根から目を逸らさないこと」

というもの。だんだんコツが分かつてきて、ふみちゃんの打つリズムと自分のリズムが合ってくるのが分かつて、崩れないテンポで十回以上続けるようになりました。

練習時間が終了、ついに試合へ。緊張で、手汗が出てきました。ホイッスルが鳴つて、打ち始め。何度かサーブを失敗しました。でも、その回、ふみちゃんのフォローがあつて、二十六回、私たちとして

は最高の回数を成功させることができました。さらに。二回目の挑戦では一回も落とさず六十三回。これには、やつている張本人も驚いて、飛び跳ねて喜んでしまいました。最後の回では、七十四回も続けることができました。自分の身体ではないような感覚で、打っている最中もハラハラドキドキが続いていて、不思議な感覚でした。ふみちゃんと顔を見合わせてニコツとして、同じチームのみんなともうれしさを共有して、これこそが伝統文化の良さかもしれないと思いました。

羽根つきの楽しみの一つ、勝ったときに相手チームにできる墨入れ。恐れ多いという気持ちもありましたが、人の顔に墨を入れると



いう行為はこの時しかできないこと。容赦なくさせていただきました。コンサートでカードオヤジ役だったゆきなちゃんには、おやじっぽくちよび髭を書いてみました。お父さんが、墨入れタイムになった途端に、意気揚々と墨入れ用の台を持ってきたのが面白かったです。

墨入れのテーマは妖怪でしたが、それを意識しなくても、みんなの顔は妖怪のようになってしまっていました。元日の午後は、とても楽しくあたたかくみんなと過ごせて、年始から幸せな気分を味わえました。企画してくれた実行委員のみんなに、ありがたいなと思いました。



獅子舞がやってきた！

よしみ

新年を迎え、元旦の日に、いつもなのはなのことを応援してください。さっている永禮さん始め、美作の国一宮 中山神社御祭禮神事保存会の方々が獅子舞を見せになのはなに来てくださいました。毎年、



を見せに来てくださることが本当にありがたいです。

保存会の方々が、二頭の獅子を持つて来てくださり、片方は歯が金色で雄、もう片方は歯が黒色で雌だということを教えていただき、獅子にも雄と雌があることを知りました。保存会の方たちが、獅子の中に入って獅子舞をしてくださるのですが、今年も何人か獅子の中に入って一緒にやってみませんか？と声をかけていただき、まりちゃんやゆうなちゃんたちが始



め六人の子が獅子の中に入っていて、こんな経験、絶対なかなかできないだろうなあとと思い、見ていてもとても興奮したなあと感じます。

獅子の顔を持つている一番先頭の人は、途中で二番目の人と入れ替わっていて、力のある男性が入れ替わるほどだから相当、獅子の顔を持つて獅子舞をするのは大変なんだと改めて思いました。本当に生きているように見えて、迫力のある獅子舞が見られて嬉しかったです。

獅子舞を見せていただいたあとは、一人ずつ獅子に噛んでもらえるタイムでした。これもなかなかできない経験です。獅子舞に噛んでもらうと無病息災の効果がある

ようで、グルグルと周りながら全員獅子舞に噛んでもらえて嬉しかったですし、これで一年間健康で安全に暮らせるだろうなあと感じました。

■暖かな時間

そのあとは、これも恒例、新春イントロクイズを、永禮さんたちが準備してくださっていました。なのはなのみんなからも大人気、私も大好きな時間です。

十曲分、用意してくださっていて、〇・三秒分イントロが流れるように作ってくださっていました。正解した人は豪華景品もあり、獅子舞だけではなくて、私たちのことを思ってくさんの楽しいプレゼントを用意してくださる保存



会の方々のお心遣いが本当に温かくて、ありがたいなあと感じました。個人的に、私もイントロクイズで正解することができ、永禮さんから手渡しで作業用手袋のプレゼントをいただきました。保存会の方が来られる前は私たちは墨つきをしていて、みんなの顔は墨入りで様々な模様が描かれていたのですが、そういうことも、「たくさん負けたな」と温かく笑ってください、嬉しかったです。

最後に、私たちから保存会の方々に感謝の気持ちとして、ギター教室のみんなの『流れゆく雲』の演奏を聴いていただきました。みなさん喜んでくださっていて嬉しかったです。

永禮さん、保存会のみなさん、ありがとうございました！



「今」に向き合って書く ——書き初めの澄んだ時間——

そな

新年二日目の午前には、書初めをしました。

なのはなでは毎年、顔真卿の文字を書きます。顔真卿の文字というのは、曲がったところがなくて、基本的にどの画も真つすぐに書かれています。その文字を一生懸命

に真似して、顔真卿の気持ちに倣います。

お題となる文字「南海」。自分を離れて、手本の通りに書くようにします。

他にも、それぞれ「自分にとっての二〇二五年を表す一字」。そして、「今の心境」を二文字で書きました。



去年までは抱負を書いていましたが、今年は、「今の心境」です。抱負も未来に幸せを求める事に似た事だから、心境を書く事になりました。その事も私は嬉しかったです。

よく昔から、誕生日の時も、卒業とか、入学とか、そういう節目で、抱負とか目標について聞かれる事が多かったです。

目標を持つことはすごく大事だし、目標は常に持ち続けたいといけないけど、その質問をされる度、その質問に答える度に、胸が少しきゅつと締め付けられるような思いがありました。今のままではない、自分が求めるべき未来はどんなものだろうか、期待される答えを探していました。

だけど、今回のコンサートで、『幸せ』は未来を表現する言葉ではなくて、過去に向かって言う言

葉、過去を表現する言葉」

という事を学んだように、抱負だって、言ってしまうえばちっぽけなものなんだって今は思います。未来なんて誰にも分からないことなのに、そこにとにかく言うのは全部意味のないものになります。未来より、過去に、今に、目をむけて生きていないと、幸せにはどんどん遠くなる。

未来にばかり目を向けるから、何を目指しているのかも分からなくなつて、苦しくなる。もう抱負なんて考えるお正月はなしです。

書初めの時間は、食堂で書くチームと、リビングで書くチームの二チームに分かれて行いました。

静寂の中で、ひたすら自分の字と、自分自身と向き合う、澄んだ



空気が流れていました。

時間としては三時間近くあったと思うのですが、時間があっという間に過ぎてしまいました。課題が三作品あったというのもあると思いますが、私は時間が足りなくて、集中が切れるなんてことも全くなくて、本当に邪念が振り落とされるような、清らかな時間でした。

こうして集中して一つの事に向き合つて過ごせる時間が日常には無い事で、日常的にこんな時間があったらいいな、と思いました。

小学校の頃は習字を習う友達の作品が称賛されていたり、実際に自分もそれを見て、「すごいな……」と思いつつも、自分が習いたいと言われると、そうは思わなかった、学校の授業でも特別好きでも嫌いでもなかった、習字がこんなに楽しいなんて、思いませんでした。ひたすら静かな空間で、自分の字と、自分とひたすら向き合う時間が、本当に澄んでいて、こういう時間って大事だなと思うと、書道のある暮らしっていいなあなんて思いました。書道部を作りたいという話も少し出たので、私もプッシュして、書道部ができたら入部したいと思うばかりです。

初雪・真剣 百人一首

ほのか



そのとき、いきなり雪が激しく降り始めました。

今から百人一首大会が、行なわれます。部屋へ行くと、そこは別世界でした。窓のそばには日本人形や、鶴、亀、松の飾りが飾られて、壁一面には着物の帯で作った飾り、紅白の模様が貼り付けられ、窓の外は銀世界でした。



いつも寝ている居室とは思えないほどの美しさでした。窓の外はいよいよ本格的に寒くなるうとしているけれど、みんなでぎゅっとひとつの部屋に集まっていると、お互いから熱を感じるような暖かさを感じました。

オープニングは、ウインターコンサートにも登場した、ゆきなちゃんのカードオyajと、よしみちゃんの扮する「よっさん」はじめとする実行委員さんの寸劇でした。



ぱつとよしみちゃんが帽子を外すと、坊主のかぶり物を被ったよしみちゃんの頭が露わになりました。最後には、坊主めくりも待っています。

チームに一枚ずつ配られたのは、「果たし状」です。ゲームを行なう会場が書かれていて、獲得した点数を記録できる表になっていました。

■散らし取り

まず散らし取り第一試合目は鶴の間にて、のんちゃんチームとの対戦でした。

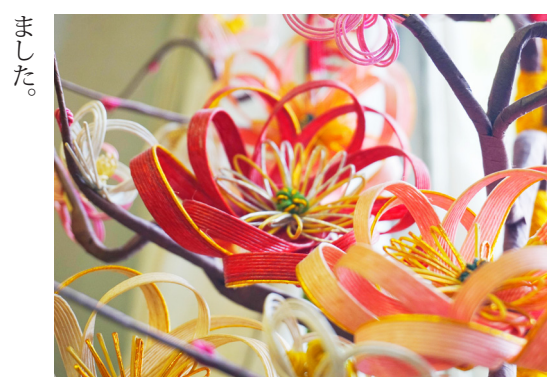
一発目から強豪との試合となりました。のんちゃんは、百人一首を全て暗記している……！ その

他ベテランお姉さま集うチームで、対するは自分をはじめ百人一首歴が浅い、フレッシュなメンバー。気持ちで負けない……！ 果敢にかかっていきました。

上の句が読まれ、五秒以内に札が取られていきます。相手チームのその素早さ、反応速度に感動しつつ、こちらも諦めずに札を取ろうと努めました。

下の句のひらがなをきいて、瞬発力勝負で取りに行きます。たまたまぐれで札がとれたときは、すごく嬉しかったです。

相手チームのえつこちゃんが、読み手に回ってきました。すると、札を一枚引いてそれを目視するやいなや、「はあつ!!」と声が漏れ



その動揺の声を聞き、一同は悟ります。

次によまれるのはきつと、百人一首の中でもメジャーな和歌、誰もがこれなら取れる、と言う魔法の札。その札だけは、毎度争奪戦になります。

次の瞬間、

「ちは……」

「はい！」

一目散に「からくれないにみずくるとは」を取りに行き、見事それは的中していたのです。

よし。

相手チームから、「もう、えつちゃんっ！」という仲間われの声が出つつ、笑い真剣さの中、試合は続きました。

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

結果は、七十五対二十五で、のんちゃんチームの勝利。圧倒的でした。ですが頑張ったで賞を取ったと思いました。なぜなら、〇点ではなかったから。

勝つても負けても、すごく楽しかったです。月に一度のセブンブリッジも楽しいけれど、月に一度の百人一首でも、楽しいだろうなと思いました。

■合図にご注意

続いては、青冠。

私はピンだったため、実行委員のよしみちゃんが一緒にゲームに

参加してくれました。

対角線上に座るは、しなこちゃん！ しなこちゃんと一緒に協力して、場を読み合います。

作戦会議のときに、二人で合図を考えました。仲間に「矢五郎」を出してほしいときは、指で弓を引くような、親指と人差し指で滑らせる仕草。「縦烏帽子」は、目を縦に泳がせ、「横烏帽子」では目を横に泳がせるのは？ と、しなこちゃんが考えてくれて、いやそれわかりやすすぎるよ！ と大爆笑。じゃあ、逆にしよう！ と決めました。そこで縦烏帽子は目を横に泳がせる合図、横烏帽子は目を縦に泳がせる合図に決めまし



た。

それで本番、わたしが自分でかけたその罠をうっかり忘れていて、しなちゃん！ これだよ！ と縦烏帽子のことを伝えたかったけれど、うっかり目を縦に泳がせてしまいました！

それでもその回は勝利することができました！ しなこちゃんがまちちゃんからの坊主集中攻撃に遭っていましたが、それがかえっておとりとなり、わたしとよしみちゃんのペアがスムーズに上がることができました。青冠で勝てたことは初めてだったので、とてもうれしかったです。

■運がよかった！

最後は坊主めくり！



場の中央に置かれた山から、順に札を一枚ずつめくって、絵柄を見ていきます。殿(との)なら一枚もらえるだけ。姫なら、もう一枚引ける。坊主なら、すべての持ち札を場に献上！ 次に姫を引いた人が、ごっそり、その札をもらえます。

こればかりは運が左右するゲームで、最後までどうなるかわからない。なっちゃんとペアになり、札を引いていきました。殿……姫……坊主！ とみんなが輪になり着々とカードを引いていきます。坊主を引いた人には、坊主のかつらが回ってきます。



ゲームが中盤に差し掛かり、ついに、あの札が引かれました。

「……蟬丸!!!」

この蟬丸、引かれたら、その場にいた全員の手持ち札が没収になり、場の中央に集められます。その莫大な札は、そのあと最初に姫を引いた人がもらえる、というわけです。

二つある山札のうち、どちらかを選んで引きます。

なっちゃんにどちらが良いか聞き、なっちゃんが、「右でいこう」とか、「左でいってみよう」と言ってくれた方をわたしが引きました。

するとそれは、姫でした!!

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

会場から歓声が上がリ、なっちゃんとうわしはその莫大なカードを贅沢にも全ていただきました。

さて問題はここから。

一度得たとしても、また坊主を引いてしまったらそれを誰かに明け渡すことになる。しかし皆はそれを望んでいる。

なっちゃんとわたしの出番が回つてくると毎回「坊主！坊主！」お決まりの坊主コールが鳴り響きました。どうしようもなく、ただなっちゃんの言う方を引きました。

すると札は……殿。

みんなからは「あー」という失意の声。若干申し訳なさもありましたが、最後まで逃げ切ることができました。獲得点は、二百五十五点。散らしどりで大敗した分を取り戻すくらいの点数を、坊主めぐりで稼ぐことができました。なっちゃんが坊主から守ってくれました。なっちゃんが勝利の女神様のようにでした。

新年からたくさん笑って本気で遊んだ百人一首でした。次はちゃんと和歌を覚えて、もつと取れる札を増やしたいな、と思います。楽しみです！

新春ライブ、特別な夜

みゆ

新年があけて、二日目の夜。楽しみだった、この日がやってきました。お父さんお母さんのライブの日です。どんな質問に答えてくれるんだろう、どんな歌を歌って

くれるんだろう。どんな未来へのメッセージを伝えてくれるんだろう……。ドキドキドキ。もうすぐ始まる……。リビングの明かりが薄暗くなり、スポット



ライトがお父さんとお母さんの席を照らしました。集まった皆の顔が、今か、今かときらきらして、部屋は熱気でいっぱいになっていました。そこに、お父さん、お母さんが登場。いつものお父さんとお母さんだけど、今日はなんだか、一段と輝いて見ええました。お父さんの手にはギターがあり、二人が顔を見合わせてにつこり。皆の歓声と拍手でリビングがあつという間にコンサート会場になりました。「わあ、始まる」

今回のライブは三部構成になっています。第一部は皆の質問にお父さんお母さんが答えながら、歌も歌ってくれます。第二部は、ユカリナ夫人ことお母さんの占いの館。誕生日で選ばれた人には歌のプレゼント。第三部はなのはなファミリーの今後の展望について、とのこと。盛りだくさんの内容です。

■道しるべ

まずは第一部スタート!!! 質問は、コンサート、日常のこと、不老不死についてのことにわかれていました。

ひとつめの質問はコンサートの途中で登場した、ねこさんに関する質問でした。コンサートでは、じゅりという女の子が、手相見妖怪の

不思議な妖術で、姿は人間のまま、人間をやめて「ねこ」になります。「ねこさんは、ねこのまま過ごしていくのでしょうか？」

この質問に、お父さんは、「理解が浅いですね……」と。

「ねこが何もしていないと思っているから、こういう質問になります。ねこは、掃除や洗濯、食器洗いはしていないけど、誰かのそばによりそい、その人を理解しようとして、癒し、癒され、そこで生まれる信頼関係が大切なんだ。十分ねこはねことして役にたっている。だから、答えは決まっています。ねこはねこを続けます」

実はこの質問は私がしたものでした。私は、自分が恥かしくなりました。どこかで、仕事をするひと、動き続ける人、何かのトップにいる人だけが、世間で認められると思ってしまうました。そうじゃないと、存在価値がない、人の役に立たないような気がしていました。だから、誰かによりそって、その人のことを思い、その人のためだけに、過ごす、誰かを信じるという考えを持てていませんでした。「ねこさん」は本当に素敵な役割をもっているんだな、とあらためて感じました。そんな「ねこ」

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

「こさん」の存在は、今後たくさんの人の胸に残っていくと思います。

その後もたくさんの質問にお父さん、お母さんが答えてくれました。「そういうことだったのか」とたくさんのお見もありました。間に歌もたくさん歌ってくださいました。そして、「次はこれいくね……」とギターで始まった曲が『なごり雪』でした。私は、「わあ」と思わず声がでてしまいました。ずっとずっとずっとすきだった曲で、今回自分がリクエストさせてもらった曲もありました。

「♪汽車を待つ君の横で僕は」時



計を気にしてる♪」



歌詞とともに、お父さんの声が胸に響き、自然と涙がでてきました。実は今日、風邪気味で声がありませんでしたが、そんなこと感じさせないぐらい、聞いてて本当に、シアワセで、胸がいっぱいになりました。お母さんも一緒に歌ってくれていて、そのハーモニーがたまりませんでした。歌だけで、こんなに感動することがあるんだ……『心の旅』という曲も聞くことができ、またまた涙が止まりませんでした。二曲とも、旅立ちを意味する歌詞だなと感じ、それをお父さんお母さんの歌で聞け

ることが、自分にとっては、応援されているようで、とても励みになりました。お父さんの力強いのに、繊細な歌声とお母さんの優しいきとあるような歌声につつまれで、夢の中にいるようでした。「不老不死」についての質問の中で、

「お父さんが不老不死だったら、何をしますか？」

とありました。お父さんはちよつと考えて、「なのはなを続けます」と答えてくれました。そのあとに、「物書きを続けます」誰かに伝え続けることを、自分の役割だと感じていて、書くことで、今までたくさんの人を救ってきたんだと思います。どこまでも誰かのために、気持ちをもっているお父さんが本当にかっこいいなと思いました。そして、お父さんが不老不死としたら、その隣には、

やっばり、ずっとずっとお母さんがいてほしいと私は思いました。

第二部のユカリナ夫人の占いの館。今回は四人の子たちが、くじ引きで選ばれていました。ひとりひとりへのメッセージから、最後に瞑想のことば。ひとつひとつのことばに深い意味があつて、その人にピッタリだと思いました。これからの人生を切り拓いてい

く、そんな希望をもった子には、「開拓者」という表現だったり、今からさらに自分のレベルをあげようとしている子には、「音階のように成長していく」ということば。お母さんの占いは、今まで生きてきたことを振り返り、さらに、これからの自分の道しるべをしめして下さっているように感じました。よいことも悪いことも、はっきりと伝えてくれて、でも、最後には背中をおしてくれるような言葉してくれる。お母さんの強さと優しさそのものだと感じました。占いのあとにお父さんが贈ってくれた歌も、占ってもらった子たちにぴたりで、お父さんがその子たちのことを考え、本当に理解しているんだと感じました。

■第三部へ

いよいよ第三部。今後のなのはなファミリーの展望をお父さんお母さんが話してくださいました。摂食障害とずっと向き合ってきた、たくさん症状のある子たちをみてきたお父さんとお母さん。「摂食障害は治らない」という考えが当たり前になっている今、お父さんお母さんは、人生に絶望して、死を覚悟して、誰とも関係を

とれなくなつて、すべてを捨てようと思つていた自分たちに、症状から逃げられない自分たちに、生きる意味、希望、誰かを思うことの大切さを教えてくださいました。笑うことができるようになって、苦しさに泣くのではなく、うれしさや感動で涙を流すことができるようになりました。皆で一緒に作り上げること、だめな自分でも一生懸命やることに意味があつて、その先には、絶対に答えがあること、あきらめない限り、自分を理解してくれる人がいることを教え続けてくれています。お父さんお母さんが築きあげてきたなのはなファミリーは、誰も教えてくれなかった大切なことを、伝えてくれる場でもあります。たくさん卒業生が、自分の症状と戦つて、その戦いに勝つて、治り続けています。今のその事実だけでもお父さん、お母さんは、十分に利他心にあふれた世界を作っているように感じます。でも、目指すものはもっともっと広い世界でした。お父さんが展望を話してくれました。

「ただ治るだけじゃない、能力も年齢も関係なく、症状で苦しんでいる人ならだれでも受け入れて、

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

その人たちが働ける場所にしてほしい。病院もレストランも、農業も共存して、皆で助け合って生活をしていく場所にしてほしい。症状に苦しんでいる人にも生きる希望をもってほしい。そんなソーシャルフィールドを作ってほしい」

私はそのことばに、

「やつぱり、お父さんお母さんはコンサートのなかでもあったように、社会を変える人。本当に、苦しんでいる人のことを、症状の中で、生きづらい人のことを思ってくれている。利益とかじゃなくて、利他心にあふれて、今の世の中にない考えをもっている」

と、感じました。毎日毎日、誰

かの相談にのって、どうしたら、症状に負けないかをその場で伝えてください。時には厳しい言葉で、すべては症状と戦う自分たちのため。厳しい反面、本当に、その子のことを思って、自分を誰よりも理解してくださいます。感謝の気持ちでいっぱいです。お父さん、お母さんが並んで、座っていること、いつも話していることばひとつひとつが大切です。一緒に考えて、どうしたらよくなる

かを伝えてくれることが、本当に

幸せなことだと思います。ライプの最後のアンコール曲は『ヒーロー』。私のヒーローは間違いなく、お父さんお母さん。ぴったり之歌だと思いました。

本当に三時間半があつという間でした。ただただ胸がいっぱいになり、もつともつと聞いていたいし、この空間で皆と一緒にいたいと思いました。

本当にシアワセな時間をありがとうございました。

ちぎり絵で自画像を

つばめ

お正月の三日目。

午前に、私たちは「ちぎり絵」をして楽しみました。

作品のテーマは、「自分の似顔絵」です。

新聞やチラシ、雑誌を材料にして、それらを千切って、画用紙に

のりで貼り付けていきます。

大まかな作り方を説明しましたが、作っていく過程で人それぞれ工夫や特徴が表れてきていて面白かったです。

具体的に、印象に残っている人の作品を挙げてみると、目の前の



机で制作をしていたほのかちゃん

は、新聞紙のみを使って、大きく紙をちぎって制作していました。

手や目などを新聞の広告写真から、また、果物や動物などの気に入った写真・イラストを切り取って集めていました。

その集大成を適当なところに貼り付けていくと、色々なパーツが組み合わせられて人の顔が完成していました。

桃のチラシを用いて顔の肌色を作る人が多い中、モノトーンのコラージュアートという感じで印象に残る独創的な作品でした。

また、さとみちゃんの作品は、真珠の耳飾りの少女のような構図をとっていて、カラフルで、名画

みたいな作品でした。顔の周りには、花や葉っぱのように紙がちりばめられていて、画面は白色をしているけれど、そよ風の吹くお花畑みたいでキレイでした。

■遊び心

お父さんお母さんの作品も印象に残っています。

お父さんの作品は、アウトラインを紙を貼り付けて作るのではなく、アウトラインの周りを縁取るようにチラシや雑誌で色彩豊かに表現していました。

お父さんの自画像を作る上では欠かせない角刈りヘアスタイルは、赤色一色・食べ物一点で統一されています。

顔の部分も緑や黄色など、肌色に囚われない遊び心があつて、流石お父さんだと思います。

お母さんも新聞紙のみを使っていて、モダンでエレガントな作品になっていました。

耳の部分には耳掃除の切り抜きが張られているなど、自由な発想が面白いと感じました。

私は、絵を描くことは大好きだけれど、ちぎり絵をしたことはなくて、王道の肌色の肌や黒髪に囚

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)
 われた作品になりました。
 ですが、出来た作品の展覧会をして、みんなの作品を見ていく内に、「こういった紙の使い方があったのか」と、たくさん発見がありました。
 一つは、小さく千切るか、大きめに千切るかで作品の印象が変わることを学んで、細かくちぎるほど曲線が滑らかに描けて、色使いも複雑化出来るため、「磨りガラス越しにみた人の顔」というミステリアスな印象の作品や、柔軟性のある作品が作りやすいく感じました。
 一方で、大きく千切ると、角が



ついて、明暗のはっきりした作品が仕上がると思いました。

みんなの作品からインスピレーションが湧いてきて、またちぎり絵をする機会があったら、より遊び心のある作品作りをしたい！と、創作意欲が湧いてきました。

作る過程でも、見る段階でも、自分自身の情緒を深めて、お互いを知る大切な時間になったと感じます。

遊びを通して、成長の機会を頂けたことが、とてもありがたくて、楽しかったです。

——こんな作品ができました——



つばめちゃんの自画像

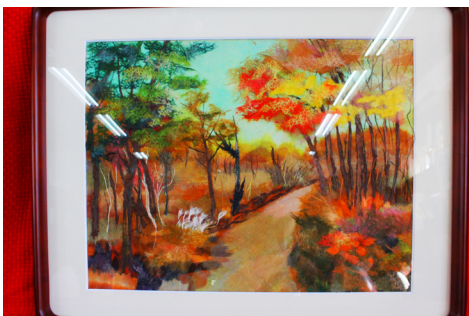


さとみちゃんの自画像



ほのかちゃんの自画像

お父さん、お母さん ▶



◀ 古吉野なのはなには、水戸のおばあちゃんのちぎり絵が飾られています

豆つかみ大会の開催・ ミニ山田君登場！ 福笑い笑点

りな

お正月三日、三日目の遊びは、豆つかみ&福笑い笑点！ この二つの遊びの実行委員をさせてもらいました。

なのはなお正月には恒例の豆つかみ、福笑い。そこに、あたらしい「笑点」の要素が加わって、いったいどんな大会になるので

しょうか……!?

まずは、豆つかみ大会。二分内にどれだけ多くの豆をお箸でつまんで、ペットボトルに貯蓄できるかを競います。リビングの中央につくった直径二メートルの円のなかに四種類の豆類を広げ、中心にペットボトルを立てます。円の外側から、円の中の豆をつまみ、腕を伸ばして中心のペットボトルに



豆を入れます。

ペットボトルに入った豆の総量がそのまま、チームの点数になります。今年は新しく、銀杏も登場し、ニューフェイスなのと、一粒が重いこともあり、どのチームも銀杏一本狙いでした。

銀杏は、大きくてつまみやすそうだけれど、実際につまんでみると、絶妙に湾曲しているフォルムが滑りやすく、力がいれにくく、どの豆よりも、つまむ難易度が高いです。箸でつまもうとして、ツルツルと滑っている光景が、箸から銀杏が逃げているようにも見えて、少し可愛かったです。



集中した空気の中、肅々とゲームが進んでいきます。どのチームも、一回戦目より二回戦目、と豆のグラム数を上げていていました。苦手なチーム、得意なチームの差がほとんどなく、どのチームも接戦でした。

点数が拮抗している中、勝敗を大きく決める次のゲームは『ギャンプル豆つまみ』です。ここで、またニューフェイスの唐辛子が登場。中心に色違いの五つのペットボトルを立て、赤ペットには小豆、青ペットは黒大豆、というように、それぞれのペットボトルに入れる豆が指定されています。けれど、入れた豆のすべてが点数になるわけではありません！ 試合終了と共に、色くじを引き、引いた色のペットボトルの得点のみが点数になる、というルールです。

さらに、ノーマル戦では、とつた豆の重さが点数になったけれど、ギャンプル豆つまみでは、豆の数が得点になります。豆の種類によっても点数が違います。

ペットボトル五本あるうち、一本しか点数にならないので、どの色のくじを引くかは五分の一の確率でとても低いです。そんな中、点数の高い小豆だけを入れるチームもあって、その心意気に拍手が

沸き起こりました。

五本中三本のペットボトルに豆を入れたチームは、くじでなんと空のペットボトルを引いて、○点になっていた。堅実に五本のペットボトルに全て豆を入れたチームは、二回戦とも着実に得点を積み上げていたりして、一気に得点の差が開いていきました。チームによって、まるきり違う作戦を立てて、持っている運も違って、バリエーション豊かで、見ていてもとても楽しかったです。

■目指せ百四十グラム

最後のゲームはおまけで、ボーンラス点をかけた、『グラム当てゲーム』をしました。

中心に一つペットボトルを置き、一分の時間の中で、ペットボトルに豆を入れ、百四十グラムになるべく近づけたチームに得点が入ります。

それだけではなく、たけちゃんたちも参戦。大人が集めた豆とプラスで、子供たちが集めた豆も、グラムに加算されます。たけちゃん、ちーちが集めた豆がどのぐらいの重さがあるか感じなが

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

ら、集める必要があります。

誤差二十グラムまでに収めれば、ボーナスポイントが入ります。どのチームも、計算をして、豆を何粒入れるか作戦を立ててから試合をしているようでした。

これまでの豆つまみは、どちらかと言えばスポーツ系で、スピードが命でした。けれど、この数あるゲームは、頭脳系の、慎重に豆を入れているチームばかりでした。

大人たちは計算をしている中で、子供たちは、計算をせず、せっせと手を動かして、片手に持った猫ちゃんペットボトルに豆を次々に入れていきます。そんな子供達の姿が、とても健気で、応援した

くなるぐらい可愛かったです。

同じチームのみんなは、たけちゃんを持つペットボトルに豆がどンドン溜まっていく光景を見て、目標のグラムからオーバーしてしまわないかとどぎまぎしています。かたや、他チームは、オーバーさせようと言わんばかりに、子供達を激励し、応援します。たけちゃん達が、たくさんみんなが応援してくれることに、とても嬉しそうで、堂々としている姿を見て、私達まで、温かい気持ちになりました。

ボーナス点をもらったのは、たつたの一チームだけでした。子供達が、百四十グラムの三分の一の量を取っていて、どのチームも、目標の重さよりも大幅にオーバー



している、という結果でした。想像以上に、重さを読むのが難いんだなあと思いました。たけちゃんとうちーちにも、楽しんでもらえて、豆つまみ大成功でした。

■座布団持ってってー!

豆つまみの後は、福笑い笑点! 今年新たに、実験的に取り入れた新しいゲームです。

その名の通り、福笑いという『笑点』をドッキングしています。

『笑点』をすることになったきっかけは、たけちゃんでした。たけちゃんが、笑点が好きで、夏の間からずっと、たけちゃんが笑点ごっこをしている姿を見てきました。お正月は、なのはなのみんなと笑点がやってみたい! たけちゃん、の大きな希望があったことで、ついに実現することができました。

司会は、お父さん。そして、座布団を運ぶのは山田たけひろくん。たけさんの座布団に囲まれながら、青いかっこいいはかまを着て、誇らしそうにいる小さな山田君が、本当に可愛かったです。

本物の笑点と同じように、各チームから代表一人が前に出て、座布団に座ります。最初はどの



チームも座布団一枚のスタートです。お題は、前に貼られた馬の台紙に顔パーツを貼ってできた顔が、何を物語っているか、というもの。その答えが、正解と近かったり、面白かった時に、司会のお父さんジャッジで座布団がもらえます。

答えに沿った顔を作る福笑いの楽しさもあれば、他チームが作った顔の面白い答えを考える笑点の面白さも兼ね備えたゲームでした。

実行委員で、お試しに遊んでみた時は、面白い答えを瞬時に考える、ということがとても難しかったです。前に貼りだされた顔が

どんなにおかしな顔でも、そのシチュエーションを、緻密に想像したり、具体的に言葉にして表す、ということが、とても高度なことだと実感しました。

ゲームが始まったばかりの時は、どのチームも、おそろなおそろな答えを発表していました。けれど、初回のゲームではほとんどのチームが座布団を取られて一枚も無くなった段階から、次から次へと発想豊かな答えが出てきました。

山田君が座布団を、一度に二枚も三枚も持つて、せっせと運んでいる姿が、とても愛らしかったです。座布団の厚みもゲームが展開していくうちに差が開いていきました。

ゲームを始める前は、みんな黙り込んでしまったらどうしよう、しらけてしまったらどうしよう……と少しの心配はあったけれど、心配には及ばず、終始、笑い声で溢れていました。

お題の馬の表情は、各チーム三回ずつ、五人で作りました。お題を見たら、話し合いなしに、言葉を交わさずに表情を作らないといけません。顔パーツは、全部で合わせて五十種類ぐらいあり、バリエーションが豊富です。そのなか

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)
ら、一番お題にぴったりのパーツを選んで、貼ります。

パーツの組み合わせも、重要だし、貼る位置によっても、見え方が全然違って、再現できる幅は無限大でした。また、顔パーツを使って、お題に出てくる虫をつくったり、足を作ったり、ビックリマークを作っているチームもあって、作っている過程や、出来上がった顔を見るだけでも、楽しかったです。

お題の解答は、かつこ埋めをした文章でした。例えば、解答が、「お茶だと思つて飲んだら、お酢だった」とすれば、問題は「()だと思つて飲んだら、()だった」としてみんなに提示します。

なかなか解答と同じ答えを言う



チームは少なかつたけれど、実行委員が考えつかなかつたような、ユーモアのある答えが帰ってくる、拍手をしたくなるぐらいでした。

結果は、座布団十一枚の、お母さんチームが優勝でした。小さな山田君が、笑点に忠実に、十一枚目から座布団の色を変えていました。座布団が積み上がっている光景は、目にも新鮮で、豊かに見えました。

今回の面白い笑点は、第一回目にして、成功に終わりました。それは、司会のお父さんが盛り上げてくださったたり、たけちゃんがたぐさんみんなにサービスをしてくれたり、ゲームをするみんなが、

楽しい空気感を作ってくれたからだなあと思いました。

実行委員として、楽しませる側として準備を出来た機会が、学ぶことがたくさんありました。何が楽しいのか、どこに面白さがあるか、分かつたうえで、プランを緻密に立てることが、とても大切なんだなあと知りました。間やテンポ、導線……ほんの小さなディテールに、楽しいものにできる

かどうか、全てがかかっているのだなあと思いました。

また、今回は、福笑いと笑点をドッキングさせた初めてのゲームだったこともあり、新しいことを考え、実現できる形に切り拓いていく難しさ、奥の深さを感じました。今回の新しい遊びが、次になげられる第一歩となっていたらいいなと思いました。

ミラクル・チャレンジ！ 新春セブンブリッジ大会

みつぎ

新しい年の運だめし!? 新春セブンブリッジ大会が開催されました!

わたしは、セブンブリッジ大会の実行委員を務めました。ゲームを行なうのは元日の夜と、三日目の夜の二回。二日間にわたるセブンブリッジを、どのようにして楽しくするか……。今回ならではの

特別ルールや罰ゲームなど、お父さんに相談させていただきました。

お父さんが、「特別ルールというのは、大きな点数差が出て、最下位が確定したと思うと気持ちが落ちてしまうから、それを救済するために行なうんだよ」

と話してくださいました。

また、「こんな罰ゲームがいいね」と、すぐにアイデアを提案してくれました。そこで生まれたのが、

「引いたお題を三つの場面にして、顔だけを使って表現しよう!」

という罰ゲームです。

お父さんの言葉がとても優しく面白くて、実際にできることが楽しになりました。

■みんなで

楽しめますように!

セブンブリッジの実行委員の仕事は、紅白歌合戦の練習やおせち作りと並行して考えなければいけませんでした。

わたしは複数の物事を考え、まとめていくのは苦手です。でも、いつも誰かが傍に居てくれて、力を貸してくれました。

それぞれのリーグ表のイラストを、みゆちゃんやのりこちゃん、ゆうなちゃんが手伝ってくれて、完成させることができました。みゆちゃんとは、地獄の十王のイラストを描いたのですが、調べてみても、どのような姿をしていたのか参考にできませんでした。結

(次ページへ続く)



(前ページからの続き)

果、着物は好きな色を塗ったり、ひげを生やしてみたり、ふたりで想像して、遊びながら色塗りをしたのが、とても楽しかったです。そして、ひとつ印象的な瞬間がありました。

セブンブリッジが始まる前、わたしは、「みんなが楽しめるだろうか」と、緊張を感じていました。まもなく近づいてきたあけみちゃん、「ああ！ 緊張する！」と声をかけてくれました。

その言葉を聞いて色々な感情が湧いてきました。いつもみんなの前に立って、リーダーシップを取ってくれているあけみちゃんも

■罰ゲームは実行委員で

緊張するのだなあと感じたことと、あけみちゃんが同じ気持ちで居るんだと思ったとき、ふっと安心することができました。同じように「成功しますように」と願って、緊張している、そんな存在があったから、一緒に超えていこう、一緒に頑張ろうと思えました。

セブンブリッジ大会の一日目のテーマは『地獄』。一時間のプチセブンブリッジで、シンプルにゲームを楽しみました。

二日目になると、テーマは『天国』へと変わります。特別ルールを設けた、二時間半の本格セブンブリッジが始まりました。

特別ルールとは、『ミラクル・

ペットボトル・チャレンジ』。一回のゲームでマイナス六百点以上の失点をしてしまった人が挑戦できるものです。水が入った三つのペットボトルのうち一本を選んだら、得点が三倍になるチャンスを獲得できます！ これは、コンサートでも披露した『ザ・ミラクル』のダンス中のマジックを応用したアイデア。

色が変わるのか、変わらないの

か、見てもドキドキしました。「色が変わった!!」と飛び跳ねて喜んだり、そのまま変わらなくてショックを受けていたり……(笑)。みんなのリアクションが、嬉しかったです。

実行委員をしながら、みんなと一緒にゲームに参加することができました。白チームで、しなこちゃんとペアで戦いました。はじめのうちは上がることができなかったのですが、どんなときもしなこちゃんが穏やかに居ってくれたので、「大丈夫だろう」と安心することができました。

しかし、安心してはいけないう状況がありました。白チームは、一日目の総合結果で最下位。どうしても勝たなくてはいけないのだ！

五歳のたけちゃんがリーグに遊びに来てくれて、しなこちゃんの膝の上に座って、一緒にゲームをしてくれました。そのときは何度も上がることで、たけちゃんのパワーを感じました。

会場は大盛り上がり！ あちこちで一発上がりをして大勝ちしたみんなの歓声と、それに抗えずに大負けしたみんなの悲鳴が聞こえてきます。

しばらくすると、信じられない



速報が伝えられました。オレンジチームのまことちゃんが五千八百点の失点!? 同じリーグで戦っていた、オレンジチームののももちゃんたちが、

「もう腹をくくるしかない……」

と静かにつぶやきました。その姿を見ながら、そうだよ、これはきつとオレンジチームが罰ゲームなのかな、と、わたしも同じように感じていたのですが……。

これまた信じられないことが起きてしまいました。ゲームの終盤というところで、白チームのまことちゃんが、「ミラクルチャレンジをします！」と宣言。何点の失点かというと、なんとマイナス五千

点。なんでー!!

順調に進んでいたゲーム、ひとつだけ予期しなかったのは、実行委員の居る白チームが最下位だったこと……。

すにたちやんたちが作ってくれた枠の前に立って、引いたお題を、顔だけを使って表現しました。まさか、自分がここに立つことになるなんて。

わたしが引いたお題は『マグロから逃げるトビウオ』。トビウオってどんな魚だったろう……でも、もう『逃げるトビウオ』を、逃げずにやるしかない!!

お父さんと考えた罰ゲームをやってみせる側になってしまったけれど、みんなが笑ってくれて、「面白かった。次からもこの罰ゲームで行こう」と言ってもらえることができました。

新春セブンブリッジ大会、大成功!! 二〇二六年、セブンブリッジで自分の運を知り、表現力を磨き、みんな楽しんでながらレベルアップしていくぞ!





ー ダイジェスト写真館 ー



たくさんの方々よりご支援をいただき、成功したウィンターコンサート。一人ひとりが成長することができました



3人の女の子が、摩訶不思議な妖怪たちと出会い、誰もが幸せに生きられる方法を知るための旅へ出ます



よしえちゃんと恵平さんをお祝いした日



福笑い笑点をしました！



中山神社の方々による獅子舞！



思い切りはっちゃけた、紅白歌合戦



チームで遊びを企画・進行しました



台に乗せたい！ 独楽回し